



衛星設計コンテスト 23 周年記念

衛星設計コンテスト

22 年の歩み

衛星設計コンテスト 20 年史編集委員会

「衛星設計コンテスト 22年の歩み」発行にあたって

1993年頃、宇宙開発は各国が国の威信をかけて推進し、我が国でも多くの衛星が打ち上げられ、一般社会でも宇宙への注目が高くなり、特に若い学生達の宇宙に対する熱意は非常に盛り上がってきました。そこで各大学では「宇宙」を銘打つ学科が創設されましたが、大学では宇宙に関する一般的な講義はあっても、具体的なプロジェクトまで関与することはまずありませんでした。

一方、イギリスのサレー大学やアメリカの大学が小型衛星を手掛けるなどの事例が出てきました。そこで、我が国としても若者の熱意と学校での宇宙教育との「はしわたし」する仕組みが出来ないものかと日本機械学会、日本航空宇宙学会、電子情報通信学会の3学会の有志が文字通り手弁当で検討され、その手法として「衛星設計コンテスト」が生まれました。本衛星設計コンテストは、1993年に第1回を開催して以来、毎年実施されて今年で23回目を迎えることになりました。

今日、本コンテストの活動の趣旨は、高校生から大学院生を対象にした衛星ミッションや衛星設計を競うコンテストを行い、衛星設計や宇宙ミッションの創造を通じて、将来の宇宙開発・利用を担う人材育成に貢献することです。

そこでこれを機会に、これまでの長年の活動に関して、22年の歩みとしてその成果などを纏めることにいたしました。

2015年6月30日

衛星設計コンテスト20年史編集委員会

折井 武、中島 厚、前田 惟裕、島田 一雄、小山 孝一郎

衛星設計コンテストとは

本コンテストは、全国の高校生、専門学校生、高等専門学校生、大学生、大学院生を対象としており、宇宙に係わる基礎・応用研究を積極化する機会を提供し、併せて我が国の宇宙開発のすそ野の拡大に寄与しようとするものです。学生の自由な発想による小型衛星をはじめとする様々な宇宙ミッションのコンセプト、アイデア、設計構想等を全国から募集し、審査の上優秀な作品を表彰します。

募集区分は以下の通り。

設計の部	アイデアの部	ジュニアの部
50kg 級以下の小型衛星設計	人工衛星を始めとした、幅広い宇宙利用ミッションアイデア	
(1) 制約条件: [質量] 50 kg以下 [形状] 打上げ時、50 cm×50 cm×50 cmの空間に収まるようにして下さい。 [打上げロケット] H-IIA ロケット (2) 対象: 課題を設けず、軌道条件は自由とします。 (3) 上記の制約条件をもとに衛星システム全体の設計を行って下さい。	(1) 制約条件: 大きさや質量は、小型ロケット、H-IIA ロケット、国際宇宙ステーションなどが利用できることを限度とします。 (2) 対象: 人工衛星に限らず、打上げロケット機体の利用、弾道飛行ミッション、月・惑星探査、衛星搭載機器、国際宇宙ステーション等、幅広く宇宙を利用するものであれば、何でも結構です。 (3) 詳細な設計は必要ありませんが、提案したアイデア実現のための技術的根拠を明らかにして下さい。	(1) 制約条件: 大きさや質量は、小型ロケット、H-IIA ロケット、国際宇宙ステーションなどが利用できることを限度とします。 (2) 対象: 人工衛星に限らず、打上げロケット機体の利用、弾道飛行ミッション、月・惑星探査、衛星搭載機器、国際宇宙ステーション等、幅広く宇宙を利用できるものであれば、何でも結構です。
大学院生、大学生、高等専門学校生、専門学校生、高校生	高校生、高等専門学校 1～2 年生	

※情報は 2015 年 6 月 30 日現在。

主催: 日本機械学会、日本航空宇宙学会、電子情報通信学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、日本天文学会、宇宙航空研究開発機構、宇宙科学振興会、日本宇宙フォーラム

後援: 文部科学省、総務省

運営: 衛星設計コンテスト実行委員会

事務局: 衛星設計コンテスト事務局（一般財団法人日本宇宙フォーラム内）

目次

衛星設計コンテスト 23 周年に寄せて

衛星設計コンテスト実行委員会 名誉会長 林 友直	1
--------------------------------	---

衛星設計コンテストの発足経緯

第 1～16 回衛星設計コンテスト実行委員会 幹事委員 八坂 哲雄	4
---	---

我が国の相乗り衛星の歩みと衛星設計コンテスト

衛星設計コンテスト実行委員会 幹事委員 中島 厚	9
--------------------------------	---

衛星設計コンテストと航空高専のかかわり

衛星設計コンテスト実行委員 島田 一雄	14
---------------------------	----

1. 沿革	16
-------------	----

2. 受賞作品一覧	26
-----------------	----

応募件数と最終審査会発表件数および受賞件数

3. 運営体制・歴代委員一覧	38
----------------------	----

4. 活動記録	44
---------------	----

5. 今後の活動について	50
--------------------	----

衛星設計コンテスト 23周年に寄せて

衛星設計コンテスト実行委員会 名誉会長 林 友直
(東京大学/宇宙科学研究所 名誉教授)

立ち上げの頃

今からおよそ半世紀前のことになるが、日本の人工衛星の研究開発は当時の宇宙科学研究所と宇宙開発事業団に委ねられていた。多くの人の胸を躍らせるこの種の活動が将来に向けて持続的に発展するためには、若い世代を育てる仕組みがぜひとも必要である。この発想から本コンテストは企画された。私はたまたまその立ち上げの現場近くに居合わせたのが、その発足に際して飯田尚志、伊藤献一、土屋和雄、中島厚、堀川康、八坂哲雄氏をはじめとする当時の若手の実行力に負うところが大きい。

実行委員会と学会

基本的な骨組みは学会に根差したものとすべく、まずは宇宙に関係の深い日本機械学会、日本航空宇宙学会、電子情報通信学会の3学会に声をかけ、それぞれ実行委員を出して頂き、学会活動の一環として動けるよう配慮されたところが特徴であり、また重要である。中島厚氏(当時航空宇宙技術研究所)の肝いりで結成されていた小型衛星研究会活動も大きな支えとなった。

第11回と第15回からは、宇宙活動と縁の深い地球電磁気・地球惑星圏学会と日本天文学会からそれぞれ実行委員を出して頂き、コンテスト運営の強化を図っている。

その後実行委員会にはさらに企画委員会を設けて活動に機動力をもたせた。これらの内容的進化は日本宇宙フォーラムによる的確な事務処理と、諸委員会委員各位の熱意に負うところが大きい。その中の一人として活躍された目黒在氏を道半ばにして失ったことは誠に残念である。同氏が身を以て示された常に前向きの姿勢はこれからも随所に生かされて運営されるものと信じている。

募集テーマと対象

第1回コンテストの募集テーマとしては「人工衛星の設計」と「宇宙活動に関するアイデア」という二つの部門を設け、大学、高専の学生を対象として提案を募るところから始まった。第13回からは「ジュニアの部」を設けて応募者の参加範囲を大学院から高校生徒まで広げている。

海外からの応募も何回かあったが、第20回からは国際的にも門戸を開くことを募集要項の記述に明記し効果を挙げている。この件に関しては小山孝一郎氏の貢献が大きい。

衛星の概念、手引書と宇宙教育

設計する衛星の概念としては、コンテスト立ち上がりのころ、アリアン社が公募した相乗り衛星を参考とし、形状は一辺45cmの立方体以内に納まり、重量は50kg程度としている。アイデアの部に関しては特に衛星にこだわらず範囲は宇宙活動全般に及ぶものとして今に至っている。

応募するための技術的な手引きとして、第1回ではアリアンロケット相乗り用インターフェイス資料のほかに、50kg級小型衛星の例として工学実験衛星DEBUT「おりづる」、アマチュア通信衛

星 JAS-1、JAS-2、および英国サレー大学 UoSAT の各資料が添えられた。

その後手引書は次第に充実され、茂原正道氏に「衛星設計マニュアル」を編んで頂くことになった。また審査過程では審査委員による応募者へのフィードバックという形で教育的指導が行われ、最終審査へ向けて内容のさらなる向上を目指して示唆を与えるというところも特徴と言えよう。

審査と表彰

審査は当初から学界や製造業界の専門家に依頼し、優れた作品を表彰しようと言う構想があった。募集に応じた提案書に対しては審査委員がつぶさに検討して、「設計の部」、「アイデアの部」それぞれ数件に絞る。絞り込んだテーマについては最終審査会で発表してもらい、設計大賞や各種学会賞が授与されることになっている。年間のスケジュールの中で書類審査はおよそ夏の時期にあたり、膨大な量の提案書を読破し評価するという大役を審査委員諸氏は担うことになる。「ジュニアの部」についての発表形式はポスターセッションとし、これも審査会場における面接と質疑応答の上で受賞の対象となる。

なお、提案内容の理解を助ける目的で課した模型の製作においてもかなりの力作が見られることから、のちに模型の出来栄えに対する「最優秀模型賞」も制定された。これは実行委員と審査委員と企画委員による投票で選ばれる。ハードウェアに対する若者の意識の低下が懸念される最近の情勢からみても適切な企画であったと考えられる。

最終審査会場

最終審査発表会場の選定は衛星設計コンテストにとって非常に大切な事項である。それには遠隔地からの参加者に対して負担とならぬよう配慮しつつ、限られた予算の中で行う必要がある。初め2回までは北の丸の科学技術館を用いたが、都立航空高専で校長をしておられた島田一雄氏のおかげで同校の汐梨ホールを12回も利用する便宜が得られた。その後は一橋記念講堂で4回、相模原市立博物館で2回、静岡科学館で1回開催しており、事務局には毎度大変苦勞をおかけしている。

コンテストの成長と期待

第1回では当時宇宙開発委員会でもご活躍中の齋藤成文先生に会長就任をお願いした。その次に会長をお願いした野村民也先生のをうけて私が長い間その職にあったが、宇宙開発の初期から貢献してこられた折井武氏に最近会長をお引き受け頂いた。新風を吹き込んで下さるものと期待している。

幸い宇宙に関心のある大学、諸学会および諸企業団体に所属する多くの学識経験者によるたゆまぬご支援で成長を遂げ、コンテストも第23回を数えるに至った。第1回のコンテスト設計部門で電子情報通信学会賞を受賞した千葉工業大学提案による「鯨生態観測衛星」(観太くん)は、当時公募されたH-IIA ロケット相乗り衛星の一つとして2002(平成14)年12月に太陽同期軌道に乗り、以来5年にわたって軌道上で多くの宇宙技術実証実験を行っている。これは衛星設計コンテストを足場として育ったその後の小型衛星の先駆けとして、宇宙への関心を高める契機となった。コンテストの場を踏んだ多くの後進達はすでに1,000名を数え、宇宙の多くの分野で活躍している状況を見るにつけても大変嬉しく思っている。

2013(平成25)年10月には、平成25年度宇宙開発利用大賞に応募して、本コンテスト実行委

員会が宇宙とその利用分野において挙げた業績は顕著であるとして表彰され、文部科学大臣賞を受賞した。

宇宙は人類の将来に対して極めて多くの可能性を秘めた分野である。本衛星設計コンテストが次の世代を担う若人の勉学と、更なる研究意欲の増進に資する温床として作用し、国の活力に貢献することを願ってやまない。

衛星設計コンテストの発足経緯

第1回～第16回衛星設計コンテスト実行委員会 幹事委員 八坂 哲雄
(九州大学 名誉教授)

はじめ

1980年代後半から90年代のはじめごろは、日本ではN-IIロケットの運用が1987年に終了し、H-Iロケットが中型静止衛星や地球観測衛星を盛んに打ち上げていた。科学衛星分野ではM-3SIIロケットが多く、観測衛星を打ち上げ、宇宙科学最先端の成果をあげていたころである。世界的にはアメリカがスペースシャトルのチャレンジャー号の事故(1986年)からようやく立ち上がり、ヨーロッパではアリアン3号(1984年-1988年)から4号(1988年-)へと発展をとげていた。このようなメジャーな宇宙開発の裏で目立たないながらも、小規模なアマチュア無線通信衛星がアメリカとヨーロッパで出現し始めていた。日本でも1986年及び1990年のピギーバック搭載によるアマチュア衛星「ふじ1、2号」、そして同時に打ち上げた「じんだい」、「おりづる」の工学実験が行われた。日本の宇宙開発は「ふじ」を世に出した日本アマチュア無線連盟(JARL)を別にすれば国の機関がもっぱら推進することが常識であったが、一般社会でも宇宙への注目度は高く、特に若い学生達の宇宙に対する熱意は非常に盛り上がっていた。大学側ではまもなく「宇宙」を銘打つ学科の創設のブームを迎えることとなる。大学関係の宇宙との関わりは、一部では理学ミッションの提供をしていたが、工学系では宇宙に関する講義はあっても具体的なプロジェクトに関与することはまず無かった。

ところがイギリスではサレー大学及び大学発のベンチャーであるSSTLが一連の小型衛星を世に出し、アメリカでもウエーバー大学などがOSCARシリーズ(1961年-)を手がけるなどの例が出ていた。日本でも学会関係者の間で若者の熱意とそれを吸い上げるメカニズムのずれを心配する声が上がりはじめた。決定的となったのは韓国がサレー大学の協力でKITSAT(1992年)を打ち上げるといった情報であった。韓国の技術者が日本に来た際の会話：

「コストを抑えるために市場に流通しているICを使っています。」

「それでは放射線で故障するとおもいますが・・・」

「実際にどんな風に故障するか確かめることも目的の一つです。」

非常にインパクトのある話であった。先進国からの情報を基に、高価な部品を使うことをア prioriに受け入れてきたものにとって、工学技術とその教育の根幹に迫るものであった。

日本機械学会、日本航空宇宙学会、電子情報通信学会の関係者の間で、大学での宇宙教育にインパクトを与える企画をしようではないかという話し合いがまとまったのが1992年の春。ロケットや人工衛星を大学の研究室で開発するようにする気運をどうやって作るかというのが目的意識である。そのような気運を盛り上げるために学会がとれる手段として、「衛星コンテスト」を開催するのがよろしかろうという方向に集約されるには時間がかからなかった。しかし、現実には衛星を作れる大学がはたしてあるかということを見ると、「衛星設計コンテスト」がその時点では妥当であろうとの結論に至った。

コンテスト実行へ向けて

「衛星設計コンテスト」を行うにあたっての考えをまとめたものを以下に示す。

1. 学会としてのねらい
 - ・若者の宇宙への熱意を吸い上げる
 - ・宇宙工学の底辺拡大
2. 問題点
 - ・大学が宇宙に進出する手がかりが少ない
 - ・教える側に材料が不足
 - ・あまりにも大きなコストを要する
3. コンテストの目的
 - ・学生、教官が宇宙を自ら考える機会の提供
 - ・日本『でも』大学・学生主導の衛星計画を実現
 - ・教育や公共技術開発のための安価な輸送手段への気運
 - ・豊富な宇宙ミッションの発掘

大学・学生主導の衛星を実現するには幾多の課題が存在する。「衛星設計コンテスト」が所期の目的を達成するために、当初からそのような課題への対応を考えた方向にする必要がある。課題と対応策を以下にまとめた。

課題1：コスト

学生の手作りと最小限の購入品
輸送手段は当面ピギーバック

課題2：技術

信頼性の考え方は従来と異なったアプローチを
失敗は最大の教材
専門家の支援

課題3：実現のプロセス

宇宙開発機関の協力（打上げ機会など）
教育機関などの協力（資金、カリキュラム）

以上のねらいや課題への対応を考慮して、コンテストの概要を以下のように定めた。

1. 目的
 - 宇宙工学分野の創意・工夫を教育現場において進めるためのモチベーションを提供し、もって宇宙工学の発展を宇宙開発の底辺拡大に寄与する。
2. コンテストの募集要項
 - 設計条件： 重量 50kg、打上げ時寸法 45cm x 45cm x 45cm 以内の人工衛星（Ariane4 ASAP 準拠）
 - 応募資格：高専、学部、大学院の学生（指導教官を含む）の個人またはグループ
 - 応募区分：アイデアの部、および設計の部
 - 提出物： 概要説明書、ミッション解析書

設計の部では設計書を加える

最終審査では模型

参加登録料：5,000円

3. 審査

第一次審査：書類により7～8件

第二次審査：発表会、大賞2件、その他学会賞など

審査基準： ミッションの独創性・意義・理論考察

実現性、技術的根拠

発表インパクト

この企画に対する外部の評価はさまざまであった。そもそも当時の宇宙開発に対するアンチテーゼを含んだものであって、学会活動であるから大目に見ようというのが大体の反応であった。後に述べる第1回の成功を受けた宇宙開発委員会への報告に当たっても、『最初だから何校も応募したけれど、2回、3回となると種切れになるんじゃないか』といったコメントがあった。しかし、中にはその狙い筋が良いと評価する人もあり、後ほど述べる支援の申し出や、コンテスト自体を買い取りたいとの思惑を示す向きもあった。

このような企画を実現しようとする際、一般には費用の工面をまず考えることが普通である。しかし、学会が主導する企画であるからには、学会員のボランティア参加を原則として何とかするとの思いで、とにかく出発することとした。実行委員会委員や審査委員はすべて手弁当の伝統は最初の出だしに作られた。従来のコスト意識を打ち破る衛星を目指す以上、コンテスト自体もコストの壁にしばられるようなまねをすべきでない。現実には、幸い科学技術広報財団から財政支援をいただくことになり、ポスターの印刷や発表会場はかなり立派なものとすることができた。

実行委員会を構成するに当たっては、齋藤成文先生がちょうど宇宙開発委員長を退任されてフリーとなられたときであり、快く委員長を引き受けていただいた。先生は「日本宇宙開発物語—国産衛星にかけた先駆者たちの夢—」(1992年)を出版し、通信・放送などの国産衛星を推進していた。審査委員長には衛星設計の第一人者であった林友直先生を口説いてやってもらうこととした。最初は予期しなかったが、思ったより多くの応募があり、しかも設計書などびっくりする力作がそろったために、審査委員の皆さんには多大の時間と努力を強いることとなった。審査委員長は毎年退任の申し出をされ、何とか頼み込んで3年間はやってもらうルールができたのも初期のコンテスト以来である。

最初のコンテスト (1993年)

コンテストを始めるにあたり、1992年4月に準備会を設立した。日本機械学会の宇宙工学部門、日本航空宇宙学会の宇宙システム技術および宇宙技術部門、電子情報通信学会の宇宙・航行エレクトロニクス研究専門委員会がそれぞれの部門、専門委員会の委員を派遣して構成した。そして、7月には齋藤成文先生を委員長に迎えた。三学会が主催とすることには問題なく、関係官庁とも後援の打ち合わせなどをする中で、科学技術広報財団には大変意義あることと認めていただき、結果的に財政援助を含めて共催とすることとなった。ピギーバックのような小型衛星については、林友直先生、中島厚さんなどが中心となり、すでに小型衛星研究会の中で検討を進めていた。そこで、当

研究会には協力団体となつていただくこととした。

1992年内に募集を開始し、1993年秋に審査を終えるスケジュールとし、具体的な実行委員会が発足したのは10月。実行委員会が正式依頼をすることで、当時の文部省、科学技術庁、郵政省、宇宙科学研究所、宇宙開発事業団に後援を引き受けてもらった。直ちに、学会誌掲載により募集を開始した。特定の大学などに偏らせないように、全国の211大学・高専にポスターやダイレクトメールを送付した。

1993年3月までに参加登録をしてもらい、詳細な技術資料と応募様式を送ることによって6月までに実際の応募をってもらうこととした。参加登録は31件、実際の応募は21件であった(アイデアの部は13件、設計の部は8件)。作品の内訳を以下に示す。

応募作品内訳

全21件(アイデアの部13件、設計の部8件)

力学：7件

- ・ Ophiuchus 計画
- ・ フリーフライング・ペイロード技術の基礎実験***
- ・ 万有引力の伝わる速度は？
- ・ デュアルスピンホイールに運動エネルギーを蓄積するロボット衛星
- ・ 太陽電池パドルの展開の改良とその検証
- ・ ブラシ機構によるスピン衛星の捕獲実験*
- ・ 可変太陽電池パドルを有する次世代型ロボット衛星の基礎実験

観測：6件

- ・ 大口径レンズ型宇宙電波望遠鏡の可能性
- ・ Project "ITES" (小型衛星による文明活動観測実験)
- ・ 惑星大気サンプルリターン衛星
- ・ 小型地球撮影衛星の設計
- ・ スピン衛星による簡易全天空スキャンニング法
- ・ 鯨生態観測用小型衛星システム*

微小重力実験：2件

- ・ 微小重力下実験用小型衛星*
- ・ 生物の概日周期の宇宙実験

通信・電力伝送：2件

- ・ 衛星間電力伝送実験
- ・ 人工衛星を利用した総合安全システム(Safety Service Satellite: SS-SAT)**

その他4件

- ・ 宇宙花火衛星*
- ・ 人工彗星
- ・ 人工食衛星
- ・ 宇宙からのメッセージ

*** 設計大賞 **アイデア大賞 *その他の賞

7月に第一次審査により、アイデア5件、設計4件を選定し、9月の最終審査に向けて審査通過作品に対して通知とモックアップ製作の指示をした。最終審査会は宇宙の日（9月12日）に科学技術館会議室で行った。若者達の熱の入った発表、モックアップを使った説明、そして、辛らつな審査委員からの質問とそれに対する鋭い切り返しなど、最終審査会は大成功であった。マスコミをはじめとする一般の反応も極めて好意的であった。これを受けて、すぐさま次年度に第2回を開くことを決定した。

コンテストを開くにあたって、実行委員会レベルで陰に隠れた慎重な検討が行われたことを記しておきたい。

- 1) 衛星設計は始まりであり、フライトまでレベルアップして初めて成果を上げることになるという意識があった。そのためには技術のアップのほか、開発経費がすぐさま課題として浮かび上がる。そこまでを見据えたコンテストとするにはどうするか議論があった。スポンサーを募って「冠」付とする案もあったが結局は実現しなかった。
- 2) 創意工夫による設計は必ずや新しい「知的所有権」を生み出すと考えられた。応募と発表の中で、これをどのようにして発案者に属することを明確にし、尊重することができるかを議論した。発表したことは即公知の事実となる。結局、応募書類にその旨を記載して、できるだけ事前の所有権登録をするよう注意を喚起することとした。

設計から実衛星へのレベルアップは現在に至るも課題であり続けている。第1回の電子情報通信学会賞獲得作品「鯨生態観測用小型衛星システム」が、2002年12月18日に初めての大学衛星としてフライトしたことは特筆に価する。さらに、当初に狙った目的、「宇宙工学分野の創意・工夫を教育現場において進めるためのモチベーションを提供し、もって宇宙工学の発展を宇宙開発の底辺拡大に寄与する。」は十二分に達したと評価できた。

知的所有権に対しては、決して十分な処置ができてはいないが、実際には問題が浮かび上がったことはないと承知している。これは発表内容が知的所有権に値しないからではなく、各応募者は単に公知とすることで満足しているのであろうと解釈できる。学生の時代から権利意識を明確に意識することは今後とも必要であろう。

我が国の相乗り衛星の歩みと衛星設計コンテスト

衛星設計コンテスト実行委員会 幹事委員 中島 厚
(元信州大学大学院教授、信州衛星研究会事務局長)

はじめに

1992年9月12日は毛利宇宙飛行士がスペースシャトルで初めて宇宙に飛び立ち、我が国の有人宇宙活動が本格的にスタートした日と言える。毎年同日は「宇宙の日」としてさまざまな行事が行われているが、翌年の「宇宙の日」に毛利宇宙飛行士を迎えて第1回衛星設計コンテストの最終審査会が科学技術館内サイエンスホールで開催された。本コンテストの開催にあたっては1992年4月10日に第1回準備会を、日本機械学会から八坂哲雄氏（当時日本電信電話公社 NTT）、狼嘉彰氏（当時東工大）、伊藤献一氏（当時北大）、中須賀真一氏（東大）、日本航空宇宙学会から橋本英一氏（当時宇宙開発事業団 NASDA）、鈴木良昭氏（当時通信総合研究所 CRL）、電子情報通信学会から前田惟裕氏（当時 NASDA）、小型衛星研究会から中島（当時航空宇宙技術研究所 NAL）が参加して当時の NASDA 浜松町分室で開催した。その後数回にわたる準備会を経て、コンテストの趣旨、内容、審査基準、技術資料等を固め、同年10月19日に第1回実行委員会を開催し、同年11月の募集を開始する運びとなった。開催案内は学会誌での会告と各大学・高専へのポスターのダイレクトメールで、当初は封筒入れ作業を皆で行った記憶が残っている。小型衛星研究会は本コンテストの協力機関として技術資料の提供等を行ってきたが、本コンテストと小型衛星研究会並びに我が国の初期の相乗り衛星との関わりについて述べてみたいと思う。

我が国初の相乗り衛星

小型衛星に関する高まりは世界的に見ても1990年前後かと思われる。中でも50kg級の超小型衛星は、大型ロケットの相乗りペイロードとして非常に安価で打上げが可能ということもあり、研究機関や大学でも経費的に手が届くところまで来た。また短期開発、新規技術実証の手段としての魅力から産業界からも熱い視線が注がれていた。我が国の最初の相乗り衛星の打上げは、1986年のH-Iロケット試験機1号機によるアマチュア衛星JAS-1「ふじ1号」と磁気軸受フライホイール実験衛星MABES「じんだい」である。我が国初の相乗り打上げということで、その実現には多くの関係者の努力があった。特に日本アマチュア無線連盟（JARL）の幅広い活動が報われた結果でもあったと言える。世界におけるアマチュア衛星の打上げは、人類初の人工衛星スプートニクの打上げ（1957年10月4日）から間もない1961年12月12日に既に打ち上げられた（OSCAR-01）。その後1978年3月5日に打ち上げられたOSCAR-08では我が国のアマチュア無線家もその製作に参加（トランスポンダと電源装置担当）した。打上げ国は米国の他に当時のソ連、イギリス（サレー大学のUoSAT-1（OSCAR-09）及びUoSAT-2（OSCAR-11））、ドイツ、フランスと各国で開発も進み、多くのアマチュア無線家を有する我が国も、他国の衛星を利用するばかりでなく自前の衛星打上げの必要性が出てきた。1980年代に入り、JARL関係者は日の丸アマチュア衛星の実現を目指して、当時の郵政大臣、科学技術庁長官への働きかけや電波技術審議会答申へのアマチュア衛星計画の盛り込み等、地道な努力が続けられ、その結果、1983年2月23日に開催された宇宙開

発委員会懇談会で了承された（1982年7月13日に相乗りペイロードの募集があり、2週間後の7月26日に締め切れ、アマチュア衛星と磁気軸受フライホイール実験衛星が認められた）。後者はロケット2段目からは分離されず、主衛星である「あじさい」とロケット2段目を結合する段間部に搭載する条件となっていた。両衛星は当初の打上げ計画より半年遅れの1986年8月13日に打ち上げられ、「ふじ」（その後、2号機が打ち上げられたため「ふじ1号」（OSCAR-12）となる）、「じんだい」（この愛称は打上げ直後には命名できなかったが・・・）と命名された。「ふじ1号」はJARLがトランスポンダを製作し、衛星システムは日本電気NECがとりまとめを行ったものである。一方の「じんだい」は当時のNALが開発した衛星で、段間部へのフライト機器の搭載・試験はNAL（調布市）において実施された。1980年代の我が国の衛星打上げは、当時の特殊法人で実用衛星とその打上げ手段であるロケットを開発するNASDAと宇宙科学の衛星・ロケットを開発する宇宙科学研究所ISASに限定されており、それ以外の機関が開発・打上げを行うことは前例がなく、将来技術の先行研究を行うNALは独自の衛星開発・打上げができなかった時代である。新しい技術開発は多岐にわたり、それぞれの技術実証を事前に行うためにはこれらの実用衛星・科学衛星だけでは対応できなくなってきたおり、特に開発から打上げまで5年～7年もかかるプロジェクトでは新規技術の実証もその実現時には既に技術が陳腐化してしまう恐れがあった。また多岐にわたる技術は多くの研究開発機関が関与して進めていく必要があり、当時のNALも新規技術を早期に実証し、実用化を図って世界の開発競争には立ち遅れないためにも研究開発者自身で技術実証する必要があると考えていた。今回の相乗り打上げの公募は初めてその制約を解除することが出来る機会でありそれを逃す手は無いと言える。研究者の思いは現在衛星設計コンテストに応募し、苦勞を厭わず、将来衛星を開発したいという皆さんの思いと同じあり、ミッションに対する強い思いがあって実現できるものと言える。両衛星とも30代の若手研究者・技術者が主体となって取り組んだミッションでもあった。相乗り衛星は少ない予算で宇宙実証実験ができる数少ない機会である。「じんだい」で実証した技術は、人工衛星の3軸姿勢制御機器に必須のフライホイール（リアクションホイール）の長寿命化を目指して、ロータ部を支える軸受を従来の玉軸受から非接触で支持する磁気軸受に改良する革新的なものである。

相乗り打上げは新規技術の早期実証の場

「じんだい」に関してはURLにて公開されていないので、開発担当者として少し述べてみたいと思う。1970年代後半、フランスの企業がその試作機を持って我が国でデモンストレーションを行った。それまでは玉軸受のフライホイールの国産化を目指して研究開発を行っていたが、他国との技術の差に将来の危機感を覚え、また研究者には興味のある磁気軸受ということもあり、急きょ研究開発の方向転換を行った（玉軸受ホイールの実用化はNASDAが実施）。現在磁気軸受が活用されている分野は遠心分離機、ターボ分子ポンプ等の高速回転体で、回転体の6自由度の内、回転軸を除いた他の5軸を電磁石で能動的に制御する方式（5軸能動制御）が主流であるが、衛星搭載用では、小型軽量、低消費電力の条件を満足する必要がある。そのために永久磁石と電磁石を併用した機構を採用するが、永久磁石だけでは安定化しない（Earnshawの定理）。安定化するためには1軸のみを制御する方式から5軸まで制御する方式まであり、制御軸数を多くすると制御回路、部品点数が増えるため信頼性が低くなる。1軸制御方式が最も部品点数が少ない方式だが、安定化するためには構造的な工夫や幾何学的な制約が生じることになる。フランス企業のモデルは1軸制御型

で、その構造の複雑さ・精密さに感嘆するとともに、よりシンプルな構造が望ましいと感じていた。直後から我が国における永久磁石／電磁石併用型磁気軸受の開発が始まり、NAL と国内の企業と共同で各種制御方式の試作開発を進め、海外でも開発を進めていた NASA や ESA との開発競争となった。数年後には 2 軸制御型が最もシンプルであり、浮上実験にも成功した矢先に、相乗り打上げの機会の情報が入り、NAL における予算の見通し、関連企業との調整を行い、研究者 5 名程度の有志からなるプロジェクトがスタートした。フランスのリモセン衛星 SPOT1 号は 1986 年 2 月 22 日にアリアン 2 ロケットで打ち上げられたが、その姿勢制御機器として 1 軸制御型の磁気軸受フライホイールが搭載された。「じんだい」の打上げはその約半年後になったが、2 軸型の磁気軸受フライホイールを搭載し、宇宙での実証実験に成功した。欧米より約 10 年遅れでスタートした磁気軸受の研究開発もほぼ追いつくことが出来たと実感した次第である。フランスはその後も SPOT や軍事衛星に磁気軸受フライホイールを搭載しているが、1 軸制御方式だけでなく 2 軸制御方式も開発した模様である。このように相乗り打上げを活用することにより、短期に新規技術の実証が可能となることが明らかになった。4 年後の 1990 年 2 月 7 日に打ち上げられた H-I ロケット 6 号機では、2 機の 50 kg 級超小型衛星の相乗り打上げが行われた。NAL・NEC・日産自動車 NISSAN・日本飛行機 NIPPI の 4 機関が共同で開発した工学実験衛星である伸展展開機能実験衛星 DEBUT 「おりづる」と「ふじ 1 号」の後継機である「ふじ 2 号」(OSCAR-20)。前者は 18 カ月で新規に衛星開発を行い、当時の短期開発衛星として記憶されており、後者は「ふじ 1 号」の予備機として保管されていたフライトモデルの改良機である。

小型衛星研究会の立ち上げ

このように H-I ロケットでは 2 度にわたり相乗り打上げが実現したが、その後の継続的な相乗り打上げの実現にはまだ時間がかかった。1990 年は国内外においても相乗り打上げの記念すべき年と言える。アリアン 4 (F35) が初めて相乗り衛星搭載専用のプラットフォーム ASAP (Ariane Structure for Auxiliary payload) で 6 機の超小型衛星を打ち上げ (1 月 22 日)、前述の「おりづる」と「ふじ 2 号」の打上げ (2 月 7 日)、4 月 5 日には米国で空中発射システム (PEGASUS) による海軍の小型衛星 NavySat の打上げ、7 月 16 日には中国の長征 2 号によるパキスタン初の超小型衛星 BADR-1 の打上げと、打上げ手段も多様化してきた。アリアン 4 はその後ほぼ毎年、ASAP による複数衛星の同時打上げを行ってきた。このような状況の中で、我が国において、NAL と CRL の有志が中心となって小型衛星研究会 SPWS (Small Payload Workshop) を立ち上げ、1986 年の相乗り打上げの実績と 2 度目の相乗り打上げを翌月に控えた 1990 年 1 月 22 日に第 1 回研究会を開催した。我が国においても安価な相乗り打上げが実現可能となった状況下での研究会の発足は時宜を得たものであり、研究会活動も熱気を帯びたものであった。初代会長は野村民也宇宙開発委員会委員長代理 (その後、林友直千葉工業大学教授 (当時) に引き継がれた)、幹事として NAL の狼嘉彰氏、CRL の飯田尚志氏、幹事補佐に NAL 中島と CRL の近藤喜美夫氏、事務局として日本電気、三菱電機、東芝が担当した。当初は国研、大学及び民間企業 (国内の衛星開発企業並びに商社) 25 機関からスタートし、最終的には約 40 機関が参加して、小型衛星の開発、打上げ、システムに関して可能なミッション、技術等の調査と情報交換を行うと共に、解決すべき課題の抽出、検討を行って将来の我が国の各種小型衛星利用計画の健全かつ効率的な発展に寄与することを目的として活動を続けた。当初は毎月 1 回のペースで研究会を開催し、更にシンポジウムの開催、海外調査

(米国・カナダ及びヨーロッパ各国) も行い、その後も約 15 年にわたって活動を続け毎年報告書を作成してきた。研究会活動の中では数多くのミッション提案も行ってきた。我が国の主力ロケットが H-I から H-II になり、継続的な相乗り打上げを実現するためにも、数多くのミッション提案を行う必要があることから、研究会の中に超小型相乗り衛星推進研究グループを 1995 年に立ち上げ、61 件のミッション提案、更には打上げの優先順位を考慮した詳細検討を進めてきた。当面の目標は ADEOS-II の相乗り打上げの要望であった。そのために NASDA や宇宙開発委員会懇談会での説明等を行って、相乗り打上げの実現の機会確保を強く要望してきた。結果的に、林先生の鯨生態観測衛星他 2 機の相乗り打上げが 2002 年 12 月 14 日 H-IIA ロケット 4 号機で実現したが、構想から打上げまで約 10 年という年月は時間がかかりすぎたという感は免れない。1986 年の我が国最初の相乗り打上げから 16 年間に 4 回しか相乗り打上げは行われなかったということは、打上げ機会があまりにも少なすぎると言える。その間に衛星設計コンテストは 9 回を数え、衛星打上げが思うように進まないと感じる中、2003 年 6 月 30 日に海外のロケットを使って打ち上げた東大、東工大の CubeSat により新たな展開が開け、その後多くの大学で CubeSat の開発・打上げが行われることとなった。更に 2006 年 5 月から宇宙航空研究開発機構 JAXA においては H-IIA ロケットによる相乗り打上げの通年公募が開始され、技術的に実現可能なミッション提案は大幅に打上げ機会が増え、衛星設計コンテストで提案されたミッションが数多く打ち上げられるようになったことは周知の事実である。我が国初の相乗り打上げから 20 年を経て、やっと定常的な相乗り打上げが実現したことになる。小型衛星研究会はどちらかといえば国研や民間企業側からの視点で活動を進めてきたが、学会活動の視点からの活動として立ち上げられたのが衛星設計コンテストであると言える。

衛星設計コンテストからフライトへ

信州大学で教鞭をとっていた時期には本コンテストの恩恵を受けて、1990 年の「おりづる」の打上げから 24 年後に再び相乗り打上げの機会に恵まれたのでその経緯についても若干記述したい。信州大学と信州衛星研究会が連携して開発した可視光通信実験衛星「ぎんれい」プロジェクトである。この衛星の実現には衛星設計コンテストで受賞したことが大きな契機となった。2010 年 11 月 20 日に開催された第 18 回衛星設計コンテスト最終審査会で、設計の部に申請した信州大学の森林観測衛星「こもれび」が電子情報通信学会賞を受賞し、学内においても学生表彰を受ける等の評価を得ることが出来た。その結果、その後の JAXA の H-IIA ロケット相乗りへの応募や学内外での予算獲得が比較的スムーズに進むようになった。応募に当たっては「こもれび」の中で提案した可視光通信のみをミッションとした可視光通信実験衛星を提案し、2011 年 12 月 14 日に GPM 主衛星の相乗り副衛星として他の 6 大学と共に相乗り打上げに採択され、2014 年 2 月 28 日に打ち上げられ、2014 年 11 月 24 日に大気圏に再突入するまで約 9 カ月間にわたって実験を行った。一般に相乗り採択から打上げまで 2~3 年しかないため新規にスタートするプロジェクトにとってはかなり厳しいスケジュールとなっている。特に大学における開発を、JAXA の Phase0/1~Phase3 レビューをクリアするスケジュールと連動させなければならないため、実作業としてはかなり制約を受ける事になるので、プロジェクトスタート時には十分なスケジュール管理が重要である。

おわりに

衛星設計コンテストは、我が国を代表する多くの専門家が関与しており、また最終審査会はこれら専門家が一堂に会して審査・コメントを行う場であり、これは他では得られない貴重な討論の機会でもある。相乗り打上げの機会が増えてかなりの確率で衛星打上げまで実現できることになった現在(2009年から2014年の6年間に9回の相乗り打上げが実現)、若い人達の参入が容易になり、これにより宇宙のすそ野が広がる状況になって、小型衛星研究会や衛星設計コンテストの設立当初の目的の一つが達成されつつあると言える。しかしながら2015年以降の相乗り打上げの機会が非常に少ないことが懸念される。本コンテストの活動が今後10年、20年と継続し、また打上げ機会を確保する努力を通して、我が国の宇宙開発に益々大きな役割を果たしていくことを期待したい。

衛星設計コンテストと航空高専のかかわり

衛星設計コンテスト 実行委員 島田 一雄
(東京都立航空工業高等専門学校 名誉教授)

1993年2月、私は当時の郵政省通信総合研究所へ出かけた。高専における衛星通信研究の参考とするために、同研究所が開発した安価な衛星通信送受信システム VSAT (超小型地球局) の見学が目的であった。システムは残存していたが、肝心の開発者がすでに転出していて話が聞けず、やや気落ちしていた私に、「折角来られたので、他の研究室もご覧になりませんか」と案内していただいた研究室の机の上に、出来たてホヤホヤの第1回衛星設計コンテストの大型ポスターがうず高く積み上げてあった。担当者の方に「東大からも応募してください」と言われ、「いや、東大からシフトして、いま、航空高専にいます」と答えた私は、これはおもしろい、やろうと内心決めたのであった。これがいまに続く22年間の衛星設計コンテストと私の出会いである。

翌日、5年生の通信工学の試験見回りの際に、「こんど、衛星設計コンテストが始まる、答案用紙の裏にこんな衛星を飛ばしたいとアイデアを書いた諸君には加点する」と学生に話した。このことを先の広報担当の方に電話したら大変喜ばれたのが、つい昨日のように思い出される。

航空高専は、第1回に「宇宙大花火大会」(パチンコ玉に光を当てて地球から見よう)と「ヒマ・バチ計画」(ひまわりと蜂の挙動観察)の2つの遊び心のある作品をアイデアの部に提出したが書類審査で落選してしまった。第2回は真剣に取り組み、「微小重力下における液滴の分裂実験」のテーマでアイデアの部にエントリーして書類審査をクリア、最終審査会に望むことになった。

第1、2回の最終審査会は北の丸公園内の科学技術館内サイエンスホールで行われていた。最終審査会のわずか12日前に事務局から私に「貴校は最終審査会でVHSビデオを使用するとのことですが、誠に勝手ながら、使用せずに発表することが可能でしょうか」という電話が入ってきた。私は開口一番「こんな直前になって、全国の出場学生にそんな連絡をしているんですか、さてはデッキ借用の予算がないのでは？」と尋ねたら「実はその通りでして、会場費が一日〇〇万円、机、椅子一脚××円、白いテーブルクロス1枚△△円と借用費を積算すると……」の答えに、「情けない話ですね、私がポケットマネーを出しますから、使えるようにしてやってくださいよ、責任者の方にお伝えを！」と私。翌日、「何とか借用する手当がつきました」とお礼の電話。

第2回審査会終了後には、私が事前のはがきアンケートで提案しておいた審査会終了後の発表者と審査員等の懇親会が初めて開かれたが、肩触れ合う狭い控室での侘しい会であった。丁度、衛星設計コンテストが始まった1993年に航空高専は新校舎を落成、立派なホールが設備されていたので、私は写真入りのパンフレットを携えて行き、懇親会で運営者の方々に配布、無料で最終審査会場に使っていただくことを提案したのであった。

かくして、第3回の最終審査会が航空高専汐梨ホールで開催されることになった。教職員・学生の協力を得て、事務局の担当者の方々と無事に運営することができた安堵感と航空高専の出場学生が見事にアイデア大賞を受賞できた喜びは忘れることができない。天井の高いゆったりとした特別会議室で開催された懇親会の雰囲気を出される参加者の方も多いと思う。私の研究室の卒研女

子学生が某大学修士の方と“サテコン結婚”したが、その出会いはこの特別会議室であり、私の彼女へのプッシュが功を奏したとの嬉しいエピソードである。

その後、第14回までの12年間、最終審査会の運営を事務局の担当者の方々に協力してサポートした。航空高専学生は第2回～第14回まで最終審査会に連続出場(うち4回は2作品発表)、東大、東工大と並ぶ常連校となった。全国から宇宙に夢を抱く多くの学生、生徒諸君が毎年集まって来てくれたことに加えて、初代の実行委員会会長の齋藤成文東大名誉教授から「あなたのお陰で衛星設計コンテストがここまで発展してきた」とお褒めいただいたことは非常に光栄であり、その後の私の活動のエネルギーとなっている。

最終審査会のTV取材は皆無であったため、第5回の時に、私は、航空高専が高専で唯一加入していた早稲田大学が中心のデジタル衛星通信の大学間高度共同利用協議会が運用していた衛星通信システムと幕張の文部省メディア教育開発センター(当時)がハブ局として運用を始めた双方向衛星通信システム(SCS)とを接続することを提案して、最終審査会の模様をTVと同程度の画像・音声の双方向通信で全国のSCS設置の8大学・3高専に中継配信した。この配信を、審査委員であった評論家の立花隆氏が直後のNHK教育TV『メディアと教育』の番組「デジタル革命が大学を変える、立花隆が語るインターネット時代の“学びとは”」の中で、好事例として紹介、評価されたのは大変嬉しかった。というのは、彼が最終審査会の昼休みに出場校との双方向対話の様子を壇の下でご覧になっていた時に、「どうぞ、上がられてお話しなさいませんか」と壇上からお声掛けした私に怪訝な顔をされていたので、失礼したと反省の私でしたので。

第6回からはインターネットによる全国中継をも同時に実施し、また、第8回には、新設されたSCS車載局の初運用を航空高専でお願いでき、その後も毎年運用していただいたことも記念すべきことである。全国のSCS局への受信勧誘には毎年苦勞をしたが、1局でも多くの局で受信していただくために、航空高専の教員、学生とともに尽力したのも懐かしい思い出である。

私も教員は、学生の連続出場ならびにこれら中継配信を含む衛星設計コンテスト運営への支援により、1999年度日本工学教育協会業績賞(「衛星設計コンテスト参加による宇宙工学推進への貢献」)を受賞できたことも嬉しいことであった。

1998年には、ハワイで日米の学生の会議が始まり、衛星設計コンテストの常連校の東大と東工大の2校が参加、翌年にはCanSatづくりが始まり、2001年にはUNISECが設立されるなど、衛星設計コンテスト参加校の中から、打上げを目指した学生達の衛星開発が始まった。そして、千葉工大の鯨生態観測衛星観太君を皮切りに、東大、東工大等のCubeSatなどが順次打ち上げられた。航空高専も遅ればせながら、2009年には、世界最年少衛星KKS-1を打ち上げることができたのは、衛星設計コンテストに長年、学生、教職員が関わらせていただいたことによるものと深謝する次第である。

1. 沿革

以下に掲載しているのは1993年9月12日（宇宙の日）に開催された第1回衛星設計コンテスト最終審査会の様子である。28作品の応募のうち、9作品が一次書類審査を通過し、科学技術館の会議室で行われた最終審査会で発表を行った。

次頁以降では、当時のチラシ画像や写真を交えながら本コンテストの歴史を紹介する。



齋藤成文実行委員会会長 挨拶



林友直審査委員長 挨拶



表彰状授与



会場の様子

衛星設計コンテスト 沿革

西暦	和暦	出来事	打上げ年日	打上げロケット	日本の衛星（超小型衛星～大型衛星）打上げ
1986	S61		8月13日	H-Iロケット試験機1号機	8月 ふじ1号 (JAS-1)、しんだい (MABES) * 我が国初の相乗り衛星
1990	H2		2月7日	H-Iロケット6号機	2月 おりづる (DEBUT)、ふじ2号 (JAS-1b)
1993	H5	第1回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場: 科学技術館 会議室 受賞件数: 6 運営委員会設立	2月20日	M-3S II ロケット7号機	2月 あすか (ASTRO-D)
1994	H6	第2回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場: 科学技術館内サイエンスホール 受賞件数: 7	8月28日	H-IIロケット試験機2号機	8月 き (ETS-VI)
1995	H7	第3回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場: 東京都立航空工業高等専門学校 汐黎ホール 受賞件数: 6	3月18日 3月18日	H-IIロケット試験機3号機 デルタ2914型ロケット	3月 SFU 3月 ひまわり5号 (GMS-5)
1996	H8	第4回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場: 東京都立航空工業高等専門学校 汐黎ホール 受賞件数: 7	8月17日	H-IIロケット4号機	8月 みどり (ADEOS) ふじ3号 (JAS-2)
1997	H9	第5回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場: 東京都立航空工業高等専門学校 汐黎ホール 受賞件数: 7	2月12日 11月28日	M-Vロケット1号機 H-IIロケット6号機	2月 はるか (MUSES-B) 11月 熱帯降雨観測衛星 (TRMM)、きく7号 (ETS-VII) / ひこぼし、おりひめ
1998	H10	第6回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場: 東京都立航空工業高等専門学校 汐黎ホール 受賞件数: 11	2月21日	H-IIロケット5号機	2月 かけはし (COMETS)
1999	H11	第7回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場: 東京都立航空工業高等専門学校 汐黎ホール 受賞件数: 10			
2000	H12	第8回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場: 東京都立航空工業高等専門学校 汐黎ホール 受賞件数: 11			
2001	H13	第9回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場: 東京都立航空工業高等専門学校 汐黎ホール 受賞件数: 11			
2002	H14	第10回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場: 東京都立航空工業高等専門学校 汐黎ホール 受賞件数: 11	2月4日 12月14日	H-IIAロケット試験機2号機 H-IIAロケット4号機	2月 つばき (MDS-1) 12月 みどりII (ADEOS-II) マイクロラブサット1号機 (μ-LabSat)、観音観測衛星 (WEOS)
2003	H15	第11回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場: 東京都立航空工業高等専門学校 汐黎ホール 受賞件数: 12 独立行政法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 発足 (3機関統合)	5月9日 6月30日	M-Vロケット5号機 ROCKOT	5月 はやぶさ (MUSES-C) 6月 CUTE-1 (東工大)、XI-IV (東大)
2004	H16	第12回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場: 東京都立航空工業高等専門学校 汐黎ホール 受賞件数: 11 企画委員会設立			
2005	H17	第13回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場: 東京都立航空工業高等専門学校 汐黎ホール 受賞件数: 14 ジュニアの部設立	2月26日 7月10日 8月24日 10月27日	H-IIAロケット7号機 M-Vロケット6号機 ドニエブルロケット COSMOS-3M	2月 運輸多目的衛星新1号機「ひまわり6号」 (MTSAT-1R) 7月 X線天文衛星「すざく」 (ASTRO-EII) 8月 光衛星間通信実験衛星「きらり」 (OICETS)、小型高機能科学衛星「れいめい」 (INDEX) 10月 XI-V (東大)
2006	H18	第14回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場: 東京都立航空工業高等専門学校 汐黎ホール 受賞件数: 14	1月24日 2月18日 2月22日 7月27日 9月23日 12月18日	H-IIAロケット8号機 H-IIAロケット9号機 M-Vロケット8号機 ドニエブルロケット7号機 M-Vロケット7号機 H-IIAロケット11号機	1月 陸域観測技術衛星「だいち」 (ALOS) 2月 運輸多目的衛星2号機「ひまわり7号」 (MTSAT-2) 2月 赤外線天文衛星「あかり」 (ASTRO-F)、CUTE-1.7+APD (東工大) 7月 SEEDS 1 (日大) (打上げ失敗) 9月 太陽観測衛星「ひので」 (SOLAR-B)、HIT-SAT (北工大) 12月 技術試験衛星VIII型「きく8号」 (ETS-VIII)
2007	H19	第15回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場: 一橋記念講堂 受賞件数: 11	9月14日	H-IIAロケット13号機	9月 月周回衛星「かぐや」 (SELENE)
2008	H20	第16回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場: 一橋記念講堂 受賞件数: 14 最優秀模型賞設立	2月23日 4月28日	H-IIAロケット14号機 PSLVロケット	2月 超高速インターネット衛星「きずな」 (WINDS) 4月 SEEDS II (日大)、CUTE-1.7+APD II (東工大)
2009	H21	第17回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場: 一橋記念講堂 受賞件数: 10	1月23日 9月11日	H-IIAロケット15号機 H-IIBロケット試験機	1月 温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」 (GOSAT) 小型実証衛星1型「SDS-1」、SPRINT-SAT (東北大)、STARS (香川大)、 KKS-1 (航空高専)、PRISM (東大)、SOHLA-1 (まいど1号) (東大版合会)、かがやき (ソラン) 9月 宇宙ステーション補給機「こうのとり」1号機 (HTV技術実証機)
2010	H22	第18回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場: 静岡科学館ら・く (宇宙科学技術連合講演会にあわせて開催) 受賞件数: 11	5月21日 9月11日	H-IIAロケット17号機 H-IIAロケット18号機	5月 金星探査機「あかつき」 (PLANET-C) 小型ソーラー電力セル実証機「IKAROS」 UNITEC-1 (UNISEC)、Negai☆ (創価大)、WASEDA-SAT2 (早大)、KSAT (鹿児島大) 9月 準天頂衛星初号機「みちびき」
2011	H23	第19回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場: 一橋記念講堂 受賞件数: 14	1月22日	H-IIBロケット2号機	1月 宇宙ステーション補給機「こうのとり」2号機 (HTV2)
2012	H24	第20回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場: 相模原市立博物館 受賞件数: 18	5月18日 7月21日 9月9日 10月4日	H-IIAロケット21号機 H-IIBロケット3号機 PSLVロケット 宇宙ステーション (ISS) 放出	5月 第一期水循環変動観測衛星「しずく」 (GCOM-W1) 小型実証衛星4型「SDS-4」、風龍2号 (九工大) 7月 宇宙ステーション補給機「こうのとり」3号機 (HTV3) 9月 PROITERS (大阪工大) 10月 RAIKO (和歌山大 / 東北大)、FITSAT-1 (福岡工大)、WE WISH (明星)
2013	H25	第21回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場: 相模原市立博物館 受賞件数: 17 平成25年度宇宙開発利用大賞 文部科学大臣賞受賞 平成25年度日本機械学会教育賞受賞	8月4日 9月14日 11月19日 11月21日	H-IIBロケット4号機 イブシロケット試験機 宇宙ステーション (ISS) 放出 ドニエブルロケット	8月 宇宙ステーション補給機「こうのとり」4号機 (HTV4) 9月 惑星分光観測衛星「ひさき」 (SPRINT-A) 11月 PicoDragon (ベトナム・東大) 11月 WINSAT-1 (クイーンズ大学)
2014	H26	第22回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場: 機械振興会館ホール 受賞件数: 15	2月28日 5月24日 6月20日 11月6日 12月3日	H-IIAロケット23号機 H-IIAロケット24号機 ドニエブルロケット ドニエブルロケット H-IIAロケット26号機	2月 全球降水観測計画/二周波降水レーダー (GPM/DPR) STARS-II (香川大)、TeikyoSat-3 (帝京大)、ShindaiSat (信州大)、KSAT2 (鹿児島大) 芸術衛星INVADER (多摩大)、OPUSAT (大阪府大)、ITF-1 (筑波大) 5月 陸域観測技術衛星2号「だいち2号」 (ALOS-2) UNIFORM-1 (和歌山大)、Rising-2 (東北大)、SPROUT (日大)、SOCRATES (AES) 6月 Hodoyoshi-3 (東大)、Hodoyoshi-4 (東大) 11月 ASNARO-1 QSAT-EOS (九大)、ChubuSat (名大)、Tsubame (東工大)、Hodoyoshi-1 (東大 / Axelspace) 12月 はやぶさ2 Procyon (東大/JAXA)、ARTSAT-2 (多摩大)、Shinen2 (九州工大)



1993年（平成5年）

第1回衛星設計コンテスト

応募件数：28 受賞件数：6

最終審査会開催日：1993年9月12日（日）

最終審査会場：科学技術館 会議室

日本機械学会・日本航空宇宙学会・電子情報通信学会の主催により第1回コンテストを開催。



1994年（平成6年）

第2回衛星設計コンテスト開催

応募件数：22 受賞件数：7

最終審査会開催日：1994年8月28日（日）

最終審査会場：科学技術館内サイエンスホール



1995年（平成7年）

第3回衛星設計コンテスト開催

応募件数：24 受賞件数：6

最終審査会開催日：1995年7月30日（日）

最終審査会場：東京都立航空工業高等専門学校 汐梨ホール



第3回より第14回まで計12回、東京都立航空工業高等専門学校 汐梨ホールにて最終審査会を開催。



1996年（平成8年）

第4回衛星設計コンテスト開催

応募件数：23 受賞件数：7

最終審査会開催日：1996年10月27日（日）

最終審査会場：東京都立航空工業高等専門学校
汐梨ホール



1997年（平成9年）

第5回衛星設計コンテスト開催

応募件数：26 受賞件数：7

最終審査会開催日：1997年10月26日（日）

最終審査会場：東京都立航空工業高等専門学校
汐梨ホール



1998年（平成10年）

第6回衛星設計コンテスト開催

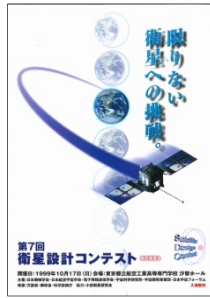
設計の部テーマ：「月周回カメラ衛星」

応募件数：24 受賞件数：11

最終審査会開催日：1998年10月18日（日）

最終審査会場：東京都立航空工業高等専門学校
汐梨ホール





1999年(平成11年)

第7回衛星設計コンテスト開催

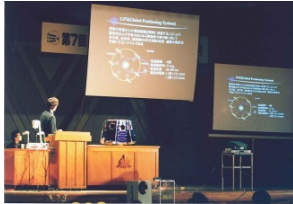
設計の部テーマ:「GT0衛星ミッション」

応募件数:27 受賞件数:10

最終審査会開催日:1999年10月17日(日)

最終審査会場:東京都立航空工業高等専門学校
汐梨ホール

特別講演:宇宙開発事業団 衛星システム本部
衛星ミッション推進部 小暮 聡 開発部員



2000年(平成12年)

第8回衛星設計コンテスト開催

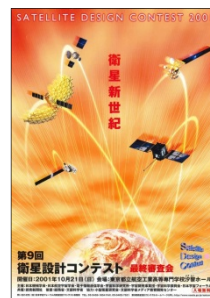
応募件数:22 受賞件数:11

最終審査会開催日:2000年10月22日(日)

最終審査会場:東京都立航空工業高等専門学校
汐梨ホール

特別講演:東京大学 工学部
中須賀 真一 助教授

宇宙科学振興会賞を新設。



2001年(平成13年)

第9回衛星設計コンテスト開催

応募件数:30 受賞件数:11

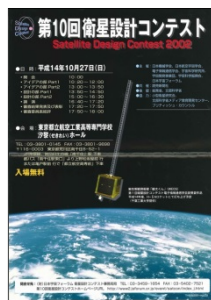
最終審査会開催日:2001年10月21日(日)

最終審査会場:東京都立航空工業高等専門学校
汐梨ホール

特別講演:Prof. Martin Sweeting, University of
Surrey (英国)

日本宇宙フォーラム賞を新設。





2002年(平成14年)

第10回衛星設計コンテスト開催

応募件数：30 受賞件数：11

最終審査会開催日：2002年10月27日(日)

最終審査会場：東京都立航空工業高等専門学校

汐梨ホール

環境観測技術衛星「みどりⅡ」と相乗りで、第1回コンテストで電子情報通信学会賞を受賞した「鯨生態観測衛星「観太くん」(WEOS)」が大学衛星として初めて打ち上げ。



2003年(平成15年)

第11回衛星設計コンテスト開催

応募件数：42 受賞件数：12

最終審査会開催日：2003年10月26日(日)

最終審査会場：東京都立航空工業高等専門学校

汐梨ホール

地球電磁気・地球惑星圏学会賞を新設。

東京大学「XI-IV」と東京工業大学「CUTE-I」が世界初のキューブサットとして打ち上げ。



2004年(平成16年)

第12回衛星設計コンテスト開催

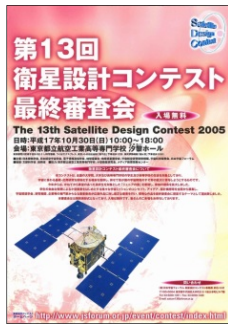
応募件数：42 受賞件数：12

最終審査会開催日：2004年10月24日(日)

最終審査会場：東京都立航空工業高等専門学校

汐梨ホール

企画委員会を新設。



2005年（平成17年）

第13回衛星設計コンテスト開催

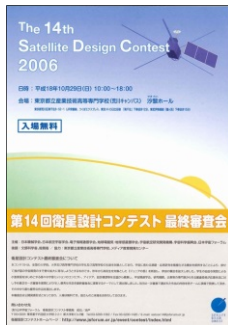
応募件数：38 受賞件数：14

最終審査会開催日：2005年10月30日（日）

最終審査会場：東京都立航空工業高等専門学校
汐梨ホール



高校生を対象としたジュニアの部を新設。初回のジュニアの部応募は9作品であった。



2006年（平成18年）

第14回衛星設計コンテスト開催

応募件数：34 受賞件数：14

最終審査会開催日：2006年10月29日（日）

最終審査会場：東京都立航空工業高等専門学校
汐梨ホール



2007年（平成19年）

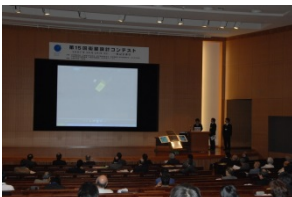
第15回衛星設計コンテスト開催

応募件数：30 受賞件数：11

最終審査会開催日：2007年10月28日（日）

最終審査会場：一橋記念講堂

特別講演：JAXA/宇宙科学研究本部
固体惑星科学研究系 加藤 學 教授



日本天文学会賞を新設。



2008年（平成20年）

第16回衛星設計コンテスト開催

応募件数：43 受賞件数：14

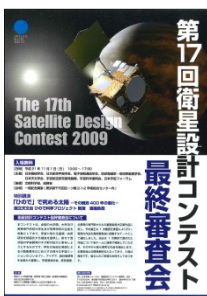
最終審査会開催日：2008年11月2日（日）

最終審査会場：一橋記念講堂

特別講演：JAXA/宇宙科学研究本部

宇宙航行システム研究系 川口 淳一郎 教授

最も優れた模型を製作したチームに贈られる最優秀模型賞を新設。



2009年（平成21年）

第17回衛星設計コンテスト開催

応募件数：41 受賞件数：10

最終審査会開催日：2009年11月1日（日）

最終審査会場：一橋記念講堂

特別講演：国立天文台 ひので科学プロジェクト

渡邊鉄哉 教授



2010年（平成22年）

第18回衛星設計コンテスト開催

応募件数：39 受賞件数：11

最終審査会開催日：2010年11月20日（土）

最終審査会場：静岡科学館る・く・る（宇宙科学技術連合講演会にあわせて開催）

特別講演：JAXA/JSPEC 研究開発室 澤田 弘崇 氏

東京以外で初めて最終審査会を開催。





2011年（平成23年）

第19回衛星設計コンテスト開催

応募件数：36 受賞件数：14

最終審査会開催日：2011年11月12日（土）

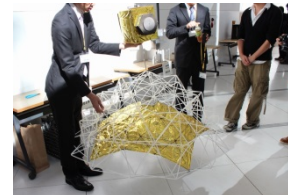
最終審査会場：一橋記念講堂

特別講演：JAXA/宇宙科学研究所

宇宙機応用工学研究系 齋籐 宏文 教授、

ルネサスエレクトロニクス 長尾 剛司 氏、

『れいめい』機体設計、CAD担当 米津 啓子 氏



2012年（平成24年）

第20回衛星設計コンテスト開催

応募件数：37 受賞件数：18

最終審査会開催日：2012年11月10日（土）

最終審査会場：相模原市立博物館

特別講演：JAXA/宇宙科学研究所

小型科学衛星プロジェクトチーム

中谷 幸司 主任開発員

コンテスト20周年。



2013年（平成25年）

第21回衛星設計コンテスト開催

応募件数：47 受賞件数：17

最終審査会開催日：2013年11月9日（土）

最終審査会場：相模原市立博物館

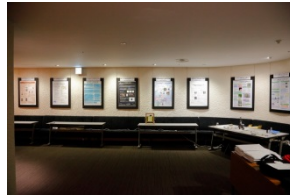
特別講演：JAXA 有人宇宙ミッション本部

宇宙船技術センター 植田 聡史 開発員

内閣府主催「平成25年度宇宙開発利用大賞」にて

文部科学大臣賞、日本機械学会主催「平成25年度

日本機械学会賞」にて日本機械学会教育賞を受賞。



2014年（平成26年）

第22回衛星設計コンテスト開催

応募件数：48 受賞件数：15

最終審査会開催日：2014年11月8日（土）

最終審査会場：機械振興会館ホール

特別講演：

JAXA 宇宙輸送ミッション本部

イプシロンロケットプロジェクトチーム

宇井 恭一 主任開発員



2015年（平成27年）

第23回衛星設計コンテスト開催

一定条件のもと、高等専門学校1～2年生並びに中学生のジュニアの部への参加が可能になった。

2. 受賞作品一覧

本項では、第1回～現在に至るまで一次審査を通過し、最終審査会へと進んだ作品を紹介する。

回数	賞名	部門	作品名	学校名及び参加者
第1回 (1993年)	設計大賞	設計	フリーフライング・ペイロード技術の基礎実験	東京工業大学大学院 井澤克彦、福島洋介、青木岳人
	アイデア大賞	アイデア	人工衛星を利用した総合安全システム	東京大学大学院 若林幸子
	日本機械学会賞	アイデア	宇宙火花衛星	東京工業大学大学院 宮崎隆雄、柳沢宏、神谷英行
	日本航空宇宙学会賞	設計	ブラシ機構によるスピン衛星の捕獲実験	東京大学大学院 大和光輝、加藤博光
	電子情報通信学会賞	設計	鯨生態観測用小型衛星システム	千葉工業大学大学院 渡辺一尊
	審査員長特別賞	アイデア	微小重力下実験用小型衛星	東京工業高等専門学校 楡木直人、西田進、木部幸雄、倉田憲一、下山哲平、高橋菊正、田中政裕
	最終審査会参加	アイデア	Ophiuchus計画	東京大学大学院 若本隆史、中村仁彦、伊藤聡、鈴木高広、松井啓、横内禎明、渡邊泰之
	最終審査会参加	設計	衛星間電力伝送実験	東京大学大学院 野上潤
最終審査会参加	アイデア	Project "ITES" (小型衛星による文明活動観測実験の試み)	上智大学大学院 西堀俊幸、青山純一、寺園淳也、臼井基文、永松弘行	
第2回 (1994年)	設計大賞	設計	デブリ観測衛星	東京工業大学大学院 柳沢宏、福島洋介、石井淳也、今村征寛、高橋孝、三木淳司
	アイデア大賞	アイデア	プラネタリウム衛星	横浜国立大学 高野敦、安光亮一郎、松本裕悟、日高伴紀、阿部寛之
	日本機械学会賞	アイデア	微小重力下における液滴の分裂実験	東京都立航空工業高等専門学校 苗木龍、石川孝一郎、白川栄生、宗像良延、森誠二郎、木原仁、金井秀夫、羽賀憲利、中野隆文、中村高志、酒井隆司、大古殿秀穂、渡辺静意、島田一雄、斎藤敏治、笠原美左和
	日本航空宇宙学会賞	設計	デブリ観測用小型衛星	東京大学大学院 矢木一博、近藤喜太、高石武久、藤原健、渡部聡彦
	電子情報通信学会賞	アイデア	プラネタリウム衛星	横浜国立大学 高野敦、安光亮一郎、松本裕悟、日高伴紀、阿部寛之
	審査員長特別賞	アイデア	広告衛星	東京大学 圓岡大治、尾曲弘子、宮城忍、矢入健久、大段克己
	努力賞	アイデア	ターミネーターD	東京大学大学院 渡辺泰之、祝谷和宏、小嶺徳晃、伊藤聡、鈴木高宏、神村明哉、中村仁彦
第3回 (1995年)	設計大賞	設計	Aerocaptureを利用した希薄大気中超音速風洞実験衛星	東京大学大学院 小畑俊裕、大橋正法、鯨井俊裕、吉増大
	アイデア大賞	アイデア	首都圏防災活動支援複合衛星システム	東京都立航空工業高等専門学校 徳山一龍、有馬卓司、及川典泰、小野孝一、蔵田佳恵子、平尾健治、古河哲平、小山重美、溝口崇、西堀俊幸、渡辺静意、斎藤敏治、大古殿秀穂、笠原美左和
	日本機械学会賞	アイデア	軌道上での膜状構造物の運動特性実験	東京大学大学院 永村知之、輪島裕之、田村貴志
	日本航空宇宙学会賞	設計	超低速落下衛星	東京工業大学 高橋孝、松本勇治、武井智哉、鶴丸大介
	電子情報通信学会賞	設計	A small communication satellite with capability of monitoring natural hazards	George Washington University Hung-Sheng Chern, Geoffery M. Cook, Mark A. Johnson, Katherine L. Karr
	審査員長特別賞	アイデア	微小重力下における液体の薄膜の性質	東京都立航空工業高等専門学校 吉田健一、藤井晴信、山下弘明、大古殿秀穂、渡辺静意、斎藤敏治、西堀俊幸、笠原美左和
	最終審査会参加	設計	タグロボット衛星	東京工業大学 福島洋介、山本宏、林良一
	最終審査会参加	アイデア	キャッチボール衛星	東北大学 鳥大介、小坂俊介、郷緒昭夫
	最終審査会参加	アイデア	テザーを用いた宇宙探測衛星	九州大学大学院 中村泰則、池田祐次、佐々木敬、森田有紀
	最終審査会参加	アイデア	Tumble Orbit Transferの理論検証	九州大学大学院 後藤弘毅、池田祐次、佐々木敬、森田有紀
最終審査会参加	アイデア	忍者ロボット	東京工業大学 谷脇滋宗、五月女剛、伊藤辰馬	

回数	賞名	部門	作品名	学校名及び参加者
第4回 (1996年)	設計大賞	設計	連星型燃焼実験衛星	北海道大学大学院 相川直樹、安倍聡、萩田誉俊、高野昌宏
	アイデア大賞	アイデア	スペースウォーム(宇宙構造物外壁点検マイクロロボット)	東北大学 志和知子、藤島幸一、平岡志志
	日本機械学会賞	設計	フレキシブル太陽電池パドルを対象とする故障試験衛星「けんめい」	東京大学 小环秀明、河本献太、小林将志、胡輝、立花隆輝、中村卓史、三宅貴浩、本橋聡美、山中泰介
	日本航空宇宙学会賞	アイデア	Space Gas Station-H-II 第2段の再利用計画	九州大学大学院 西原秀信、小笹哲彦、高木望
	電子情報通信学会賞	アイデア	人工衛星を利用した自動車事故情報システム	創価大学大学院 笠井隆之、大原信夫、牧野孝雄、濱田英一、中山哲也
	審査員長特別賞	アイデア	惑星探査ミッションのための宇宙通信ネットワーク	東京都立航空工業高等専門学校 江口和幸、杉野保、若林良二
		設計	テザー利用浮遊物体捕獲衛星「くさりがま」	東京工業大学大学院 林良一、伊藤辰馬、砂押貴光、森治
	最終審査会参加	設計	テザー衛星によるオーロラの観測	九州大学大学院 中村揚介、佐々木敬、中村泰則、松岡敬、西原秀信、小笹哲彦、小西祐二、原田新太郎、西山剛
	最終審査会参加	設計	ぶんぶん回し	横浜国立大学 高野敦、安光亮一郎、柳田史昭、青木朋子、金子太郎、村上奈緒、大辻高志、磯村誠、橋村勝彦、福田純大、樋口大浩
	最終審査会参加	アイデア	宇宙におけるGPSの利用について	東京工業大学大学院 鶴丸大介、武井智哉、泉守、志田大輔
最終審査会参加	アイデア	テザーロボットを用いた静止軌道観測	東北大学 佐藤大祐、猿橋直哉、高橋三恵	
第5回 (1997年)	設計大賞	設計	南極観測衛星「しらゆき」(DIME)	東京工業大学大学院 砂押貴光、長谷川誠幸、杉浦嘉紀、吉原圭介
	アイデア大賞	アイデア	The Antlion(ありじごく型惑星掘削ロボット)	東北大学 工藤拓、小田光範、黒須明英
	日本機械学会賞	設計	極真空場を利用したCold Welding実験衛星	北海道大学大学院 細川博、岡田啓治、高橋健太郎、中村聡介、渡辺桂史
	日本航空宇宙学会賞	アイデア	中高層大気観測衛星	東京大学 太田衆一郎、前田幸一郎、清水俊之、津田雄一、平間康介
	電子情報通信学会賞	アイデア	電離層の電子密度測定による地震予測ネットワーク	東京都立航空工業高等専門学校 羽田佳史、玄永将人、栗原まり子、大角謙、倉又和夫、内藤健市、若林良二
	審査員長特別賞	アイデア	作曲支援衛星	愛媛大学 手嶋健太郎、青井孝之、浅川幸紀、久保田慎一、小原孝則、高橋徳幸、田中紀行、日高康隆、藤井快、松本俊樹、横田洋志
		アイデア	可視・赤外画像による衛星搭載機器の故障警報システム	創価大学大学院 三海英和、牧野孝雄、中嶋賢治、小西法人、常間大作、前田建作
	最終審査会参加	設計	海洋投棄物観測衛星	日本大学大学院 柳場康成、中野貴裕、星野美土里、鈴木忠義、広瀬佳紀、山田哲也、オズワルド エルナンデス
	最終審査会参加	設計	隊列変形テザー衛星「やみくも」	東京工業大学大学院 森治、平社信人、泉守、此上一也
	最終審査会参加	アイデア	人工彗星	九州大学大学院 高木淳治、北平誠、下村慎吾、城井洋生、中野健二
最終審査会参加	アイデア	衛星回収支援バルーンシステム-RSBS	東京工業大学大学院 神澤拓也、児島光法、関口正人	
第6回 (1998年)	設計大賞	設計	月周回カメラ衛星LUNA2001の提案	九州大学大学院 坂本祐二、中野健二
	アイデア大賞	アイデア	The Jumping Turtle ~微小天体上を移動探査するロボット	東北大学 浅井央章、久宮美穂
	日本機械学会 宇宙工学部門表彰 フロンティアの部	設計	月周回カメラ衛星	北海道大学大学院 伊丹雅洋、潮敬之、加藤隆博、三田崇
	日本航空宇宙学会賞	設計	月周回軌道における飛来物観測衛星	日本大学大学院 橘田昌利、山添由紀子、石井幸生、水野妙子、恩田建作
	電子情報通信学会賞	アイデア	全方位通信衛星(Uni-directional Communication Satellite)の提案	東京大学 井伊宏光、池田一郎、永島隆、田中秀幸、山本秀典、山元透
	審査員長特別賞	アイデア	南極観測支援衛星「はやて」(TISAT)	東京工業大学大学院 吉原圭介、杉浦嘉紀、宇井恭一、関口正人、中谷孝司、鶴見辰吾、森淳
		アイデア	微小重力がイチゴの成長に与える影響	東京都立航空工業高等専門学校 古賀哲平、石塚孝裕、渡辺由紀江、富永貴博、齊藤美咲
	奨励賞	アイデア	地球近傍小惑星(NEO)検出人工衛星	九州大学大学院 城井洋生、下村慎吾、赤木寛、平山寛
		アイデア	Antipodean Planet(対蹠惑星)の活用	創価大学 村上健自、牧野孝雄、中嶋健治、森博子
		アイデア	月面体感衛星	東京都立航空工業高等専門学校 溝口崇、齊藤美咲、佐藤康治、豊島克幸、長原聖宜、花田一磨、早川卓、三村茂雄、杉村匡洋
	設計	月面極域撮像衛星「つきみそう」	東京工業大学大学院 前田幸一郎、加藤義清、酒匂信匡、清水俊之、津田雄一、平間康介、太田衆一郎	

回数	賞名	部門	作品名	学校名及び参加者
第7回 (1999年)	設計大賞	設計	GTO技術試験衛星 旋風(つむじ)	東京工業大学大学院 鶴見辰吾、澤田弘崇、中谷孝司、森淳、宇井恭一、黒川健也、前田直秀
	アイデア大賞	アイデア	BottleSat(B-Sat)による流星群の立体観測	東北大学 浜野博史、安孫子聡子
	日本機械学会 宇宙工学部門表彰 フロンティアの部	アイデア	ロボット衛星群システム	東京工業大学大学院 吉原圭介、神澤拓也、高橋孝
	日本航空宇宙学会賞	設計	テザーによる衛星軌道変換TOSS	九州大学大学院 高木望、中村揚介、古賀光、鳴海智博
	電子情報通信学会賞	設計	放射線環境試験衛星の提案	東京大学大学院 池田一郎、井伊宏光、永島隆、田中秀幸、山元透、山本秀典
	審査員長特別賞	設計	サブイバル衛星	日本大学大学院 山添由紀子、水野妙子、桶田昌利、生井沢正樹、濱田秀樹、磯部洋、小林正心、野村晃司、藤井俊彰
		アイデア	小物体射出衛星を利用した流星現象の解析	鹿児島大学 森崎悟、大平耕平、中間昇平
		アイデア	衛星3兄弟	東京都立航空工業高等専門学校 山口誠司、上田ひさこ、氏家健吾、江村知子、小田美香、鈴木大志、鈴木真、徳蔵由明、奈良橋亨、西原亮輔、林秀樹、三浦嘉代子、森田将展、山際正信、渡辺智恒
	奨励賞	設計	魚動観察衛星	北海道大学大学院 丹羽由樹子、笹木正裕、橋本望、吉川茂雄、渡辺三樹生
		アイデア	宇宙水族館“アクアリウム”	東京都立航空工業高等専門学校 鈴木大志、上田ひさこ、氏家健吾、江村知子、小田美香、鈴木真、徳蔵由明、奈良橋亨、西原亮輔、林秀樹、三浦嘉代子、森田将展、山際正信、山口誠司、渡辺智恒
第8回 (2000年)	設計大賞	設計	JetGun Sat 突風(Toppu)	東京工業大学大学院 宇井恭一、程島竜一、前田直秀、居相政史、岡田英人、宮下直己
	アイデア大賞	アイデア	The TAKO (Target Collaborarivize)-Flyer (ターゲットを協力化させる衛星回収システム)	東北大学 中西洋喜、小笠原克久、沼田亜紀子、野口新
	日本機械学会 宇宙工学部門表彰 フロンティアの部	アイデア	Space Factory 宇宙空間における大型建造物の組み立て	東京工業大学大学院 植田聡史、松井崇雄
	日本航空宇宙学会賞	設計	停波した衛星の調査	北海道大学大学院 中村大輔、草野善之、中山久広、藪田茂
	電子情報通信学会賞	設計	マイクロ波送電技術を応用した軌道上サービス衛星の基礎実験	東京都立科学技術大学 白石卓也、荒井秀夫、中嶋伸幸、藤井雅也、村瀬知彦、山口友範
	宇宙科学振興会賞	アイデア	衛星写真を利用した人口密度分布の観測	東京都立航空工業高等専門学校 有住聖子、谷貝晃広、鈴木理浩
	審査員長特別賞	アイデア	双方向デジタル放送を用いた地球鑑賞システム(Global Eye System)	東京工業大学大学院 坂本啓、武市昇
	奨励賞	アイデア	太陽へのデブリ衛星投入計画	日本文理大学 後藤裕臣、井野口秀昌、谷澤教彰、松木早苗
		アイデア	ストーム・インサイダー	日本大学大学院 野村晃司、磯部洋、水野妙子、山添由紀子、植松太郎、打木通晴、児玉剛、芳賀康二、日沼俊介、水見頼志、
		アイデア	人工衛星によるレーザ干渉計型重力波検出システム	創価大学大学院 佐々木博幸、森博子、藤田司、村松慶子、小瀬木淳也、口中伸一、吉田誠一、米津啓子、長尾剛司、杉本浩輝、井出武敏、中山伸一
アイデア		ゼーベック効果による宇宙空間での発電補助システム	東京都立航空工業高等専門学校 篠崎亮蔵、飯島孝一、江原則夫、内村宙志	
第9回 (2001年)	設計大賞	設計	LEOLEO(Leonid-meteor Observer in Low Earth Orbit)-Sat~小型衛星を用いた軌道上からの流星群観測~	東北大学大学院 中西洋喜、加藤治久、渡辺敏暢、丸木武志、石上玄也、西牧陽一
	アイデア大賞	アイデア	フォーメーションフライトによる、干渉合成開口レーダ(INSAR)地球観測ミッション	東京工業大学大学院 金色一賢、桑田良昭、鴨川晋一、石川早苗
	日本機械学会 宇宙工学部門表彰 フロンティアの部	アイデア	軌道上掲示板 ~Space Dream Networks (宇宙、夢つながり)~	関西大学 羽田野玲、今村俊介、斎藤俊哉、斎藤光、馬場文典、山中理代
	日本航空宇宙学会賞	設計	卵型衛星スクスク	日本大学 平城雅隆、大川祐輔、井上昌久、境野正法、野村晃司、日沼俊介
	電子情報通信学会賞	アイデア	ITU-SAT(Intelligent Truncated-icosahedral Usher Satellite)電波マッピング衛星	電気通信大学大学院 池田満久
	宇宙科学振興会賞	アイデア	The HEBI(Highly Effective Bending Investigator) 小天体探査用ヘビ型ロボット	東北大学 水野昇幸、色部暁義、伊藤有沙
	日本宇宙フォーラム賞	設計	1cm級静止デブリの分布状況観測衛星	東京都立科学技術大学大学院 熊谷直紀、白石卓也、藤井雅也、村瀬知彦、橋本智昭
	審査員長特別賞	アイデア	気球を用いた長期金星観測システム (Balloon-Based Long Duration Venus Observation System)	武蔵工業大学大学院 赤澤公彦、高橋威、片淵健二、井田聡、太田公平、本田真一、松本千香子
	奨励賞	アイデア	フランクリン衛星(Franklin-Sat)による成層圏-電離層間誘雷実験	大阪府立大学 青田昭仁、田川哲也、藤井信治、秋田久美子、大塚雅也、三浦有美子
		アイデア	微小デブリ回収衛星(Cleaner Satellite)	日本大学 醍醐加奈子、岩井優佳、遠藤まゆみ
アイデア		火星探査ロボット計画	東京都立航空工業高等専門学校 林田幹章、伊藤直敏、植藤崇、菅原敬之	

回数	賞名	部門	作品名	学校名及び参加者
第10回 (2002年)	設計大賞	設計	パネル展開型多目的衛星PETSAT	東京大学大学院 中村友哉、船瀬龍、永井将貴、田中秀幸
	アイデア大賞	アイデア	Microscopic Test of Newtonian Gravitation and the Casimir Effect (MITONGACE)	Massachusetts Institute of Technology 桑田良昭、合田圭介、松永慶子(Boston University)
	日本機械学会 宇宙工部門表彰 フロンティアの部	設計	A Low-Cost Microsatellite Flyby Mission of 4179 Toutatis	University of Surrey Fred Kennedy, Ian Coxhill, Egemen Imre, Sofiane Atek, Jeremy Fielding, Vaio Lappas, Marie Freebody
	日本航空宇宙学会賞	設計	ガンマ線バースト観測衛星「風鈴」	東京工業大学大学院 岡田英人、宮下直己、占部智之、柏宗孝、立川智章、山口伸奇、尾曲邦之、森田幾太郎、山本佳久
	電子情報通信学会賞	アイデア	METHANE…通信・ネットワーク・電力ステーション～火星探査インフラストラクチャーの構築～	東京大学 新井達也、程毓梁、江野口章人、中田賢治
	宇宙科学振興会賞	アイデア	宇宙リハビリテーションシステム～微小重力環境における身体障害の有利性～	東京立大学大学院 石川成道
	日本宇宙フォーラム賞	設計	自由航行型宇宙ロボット試験衛星	東京立科学技術大学 松本道弘、吉岡謙介、柏木寛之、佐藤大輔、村上千景、山本晃司、石藤諭
	審査員長特別賞	設計	テザー衛星を用いた2点デブリ観測システム	九州大学大学院 宮崎基樹、矢野宏、板橋孝昌、
	奨励賞	アイデア	再構成モジュラー型太陽発電システム	東京工業大学大学院 澤田弘崇、中谷幸司、宇井恭一、此上一也、駒津敬子
アイデア		夜光・やこう・YAKO～地震の前兆現象の観測～	日本大学大学院 朝倉泰代、橋本和明	
アイデア		宇宙ステーション内での静電霧化の実験	東京都立航空工業高等専門学校 浜辺誠士、渡辺未来織、伊藤賢一、林加代子、渡辺敬	
第11回 (2003年)	設計大賞	設計	赤外線位置天文観測衛星 あさがお (Astrometry Satellite for Galaxy Observation)	東京大学 永山枝里、藤巻遼平、佐々木史記、野尻悠太、舟根司、山本貴也、西塚要、山本勤隆
	アイデア大賞	アイデア	OMA-Galileo	東京工業大学大学院 青山絢子、由川裕、尾曲邦之、宮澤航、山田真太郎
	日本機械学会 宇宙工部門表彰 フロンティアの部	アイデア	小惑星探査ローバ「Asteroid Cowboy」	仙台電波工業高等専門学校 菅野優太
	日本航空宇宙学会賞	設計	軌道間エレベータ実証衛星 Q-SET	九州大学大学院 河村知浩、田中陽介、坂本祐二、宮崎基樹、板橋孝昌、黒田智史
	電子情報通信学会賞	設計	CUTE-II「風見」	東京工業大学大学院 宮澤航、占部智之、居相政史、山本佳久、柏宗孝、山口伸奇、尾曲邦之、金子正、東ヶ崎優、森田幾太郎、矢部秀幸、倉本祐輔
	地球電磁気・地球惑星圏学会賞	設計	PIKA-SAT (Physical Investigation for the Keystone of Atmospheric-electricity)	東北大学大学院 佐藤洋一郎、吉田純、足立透、石上玄也、色部暁義、水野昇幸、三輪章子、渡辺誠充
	宇宙科学振興会賞	アイデア	Space Cooking	日本大学大学院 醍醐加奈子、平城雅隆、岩井優佳、内山茂紀、沖野聡、佐瀬一真、中根昌克、丸木武士
	日本宇宙フォーラム賞	アイデア	傾斜機能材料による宇宙空間における比較実験	東京都立航空工業高等専門学校 小林純士、渡辺未来、進藤浩崇、酒家延之、田沼隆美、佐藤弘樹
	審査員長特別賞	アイデア	ケータイを衛星にしよう!	和歌山大学大学院 (with 和歌山県立大成高等学校美里分校) 豊増伸治、小庄竜司(大成高等学校)、小椋啓史(大成高等学校)
	奨励賞	設計	LIVE-Sat (Let's Introduce Vision of the Earth!)	日本大学大学院 岩井優佳、平城雅隆、濱本洋平、醍醐加奈子、内山茂紀、沖野聡、佐瀬一真、中根昌克
アイデア		無重力下での導電性複合材料の製造実験の提案	鳥羽商船高等専門学校 木下友喜、松山晃大、永田一守、高橋太伸	
設計		大気圏突入消失時のデータ取得衛星	北海道大学大学院 村木祐介、宮岡俊輔、伊藤光紀、児玉拓也、辻下裕人	
第12回 (2004年)	設計大賞	設計	偏光X線観測衛星「燕」	東京工業大学大学院 今井勝俊、齊藤孝男、宮元徑、矢部秀幸、飯沼大、船木勇佑、有元誠、臼田武史、藤原謙、樹本晋嗣
	アイデア大賞	アイデア	宇宙機の空気漏洩箇所特定用自律型ロボット	テキサス州立テキサス大学アーリントン校 井上寿、佐藤慎也、恩田公治
	日本機械学会 宇宙工部門表彰 フロンティアの部	アイデア	小型天体望遠鏡衛星KST(Keio Space Telescope)	慶應義塾大学大学院 美馬幸一郎、松下みづえ、清水誠一、金城直史、初島陽一、近藤陽介
	日本航空宇宙学会賞	設計	惑星電波干渉計衛星システム	東北大学大学院 荘司泰弘、野村詩穂、飛山泰亮、鍵谷将人、袖口智史、川崎公平、庄子佳央理、田中大輔、島崎隼一、宋碩昊
	電子情報通信学会賞	アイデア	耐宇宙放射線実証衛星 PARASOL	静岡大学大学院 宮田健太郎、清原美恵、佐藤亮、小林瑞人、福代諒佑、堀啓一
	地球電磁気・地球惑星圏学会賞	設計	Q-TEAM	九州大学大学院 若槻太健、肥山雄一郎、黒田智史、田中陽介、板橋孝昌、大瀬裕久、折口太郎、公田浩子、小松唯可、城田裕子
	宇宙科学振興会賞	アイデア	カスピ海ヨーグルト	東京都立航空工業高等専門学校 西山耕平、横山幸司、大張聡、坂本治、館野裕介、本田真之、行武宏訓
	日本宇宙フォーラム賞	アイデア	無重力下で製造する宇宙基地用断熱材の提案	鳥羽商船高等専門学校 篠原幹英、坂本恭介、小嶋純平、佐藤航紀、伊藤友仁
	審査員長特別賞	アイデア	北極振動観測衛星	東京都立航空工業高等専門学校 渡辺未来、田沼隆美、徳永宏、斎藤暁、幕田龍、湯田永晶
	奨励賞	設計	カーボンナノチューブの生成実験	北海道大学大学院 伊藤雄介、譜久山尚、飯田恭平、前田剛典、渡辺健介
設計		スペース☆ジャンボ	九州工業大学大学院 福重進也、藤江智宏、松田英二、右田裕丈、水田義之、井手英介、後藤尚史、齋藤悠介、神野裕紀	

回数	賞名	部門	作品名	学校名及び参加者
第13回 (2005年)	設計大賞	設計	地球大気流出観測衛星	東北大学大学院 堀内貴史、田所裕康、上田真也、佐藤由佳、田村大輔、大木智久、佐藤隼人、島崎隼一、樋田敏浩、吉川岳
	アイデア大賞	アイデア	宇宙で洗濯!	鳥羽商船高等専門学校 山田浩之、宮城慎伍、辻井祥子、インドラ・ヘルマワン、大田佳奈、中村早紀、伊藤友仁
	ジュニア部門賞	ジュニア	宇宙創業衛星	山口県立厚狭高等学校 篠田翔平、重村直毅、篠田匡史、阿部美弥子、植田奈津美、西森実穂子、沖本亜由美、中道育美、園田志津代、山永絵里子
	日本機械学会 宇宙工学部門表彰 フロントアワード	設計	ソーラーセイル技術実証衛星「MUSE」	東京工業大学大学院 樹本晋嗣、山中富夫、藤原謙、Thomas Ilijic、根田康美、杉田沙織、島田将央、臼田武史
	日本航空宇宙学会賞	設計	流星「紐」	九州大学大学院 今津貴文、四元和彦、林健太郎、大石篤、山崎夕紀、中嶋恭柄、山本佳奈、沖野誠心、鶴田佳宏
	電子情報通信学会賞	設計	ブラズマ監視衛星 PON de SAT	九州工業大学大学院 池田耕一郎、廣木侑、石井麻起子、神谷俊宏、原口祐樹、小田原健二、熊谷大地、高井努、冷水陵馬、水田義之
	地球電磁気・地球惑星圏学会賞	アイデア	超高層域浮遊採取計画「月下美人」	静岡大学大学院 川嶋一誠、堀啓一、永田靖典、岩田昌典、小林瑞人、佐野裕彰、福代諒佑、谷口諒、小林暉
	宇宙科学振興会賞	アイデア	微小重力環境における霜柱の成長について	学習院大学大学院 市村豊
	日本宇宙フォーラム賞	アイデア	宇宙空間での音による通信	東京都立航空工業高等専門学校 徳永宏、湯田永晶、田中萌生、幕田龍、横田裕哉、長谷川謙
	審査員長特別賞	設計	プロトタイプ無人実験システム衛星	九州工業大学大学院 倉原直美、大瀬貴之、木原正裕、中村陽一、藤健太、奥村哲平
	奨励賞	アイデア	ジョセフソン素子コンピュータサーバー衛星	電気通信大学 高崎和之、古平晃洋、斎藤貴夫、栗川洋平、中山心太、加藤史洋、細川嵩、小松昭浩、佐藤文哉、小出洋資
	ジュニア部門奨励賞	ジュニア	細菌観察衛星	神奈川県立神奈川総合産業高等学校 竹田裕希、船岡唯、佐藤良識、佐藤春菜、今泉直哉、瀬古晋平、上杉真平、新庄隼仁、佐藤亮介、小原伸也
きのこパンザイ			神奈川県立神奈川総合産業高等学校 相原和也、大木麻路、坂根小百合、北村麻衣、渡辺徹也、渡辺由基、赤坂俊哉、稲次翠良、中島希、船山元樹	
超小型探査機			京都府立工業高等学校 鳥嶋真也	
第14回 (2006年)	設計大賞	設計	PRIMROSE	日本大学 山崎政彦、山口晃、荒木友太、有田公輔、瓜田彰、岡崎一高、亀山尚志、種田博也、千葉悠太、増田敬史
	アイデア大賞	アイデア	宇宙旅行で心を癒す「ミジンコが棲む小さな地球」	鳥羽商船高等専門学校 三村恭弘、弓場豊大、大山雄佑、宮本賢太郎、加藤圭一、伊藤友仁
	ジュニア部門賞	ジュニア	宇宙での生活が動物社会に与える影響	山口県立厚狭高等学校 篠田匡史、西森実穂子、沖本亜由美、阿部美弥子、植田奈津美、井上真理子、田村千尋、河村裕太、黒石卓、篠田翔平
	日本機械学会 宇宙工学部門表彰 フロントアワード	設計	LAISIN	東北大学大学院 金澤知明、中野藤之、大石ほなみ、佐藤和也、吉田暁洋、氏家恵理子、首藤伸一、Saisutjarit Phongsatorn、山口智史、吉川岳
	日本航空宇宙学会賞	設計	軌道上振動試験実証衛星 BIRD	静岡大学大学院 川嶋一誠、大塚元氣、岩田昌典、加藤久登、小池雅敏、宇野由起、松村健壯、小嶋茂稔
	電子情報通信学会賞	アイデア	CUMO-Sat (Cloud's Utility Modeling Satellite)	防衛大学校 阪中友也、前田健
	地球電磁気・地球惑星圏学会賞	設計	小型宇宙天文台「完全星覇」	大阪府立大学 古川琢也、小泉拓郎、久保良介、吉村一幸、山口智宏、本田徹、福西瑛司、波々伯部広隆、江藤力、和田貴行
	宇宙科学振興会賞	アイデア	流星バースト粉塵散布衛星「流星号」	東京都立航空工業高等専門学校 葛巻拓也、中元隆介、大倉徹也、降矢敏秀、堀谷介、渡辺雄太
	日本宇宙フォーラム賞	設計	彗星トレイル観測衛星	北海道大学大学院 榎原隆浩、柿倉彰仁、岩城裕樹、片野光、金子雄大、川上哲史、森一大、由利泰史
	審査員長特別賞	アイデア	Bugs' Nest	長岡技術科学大学 石井峻信、菅井光信
	奨励賞	アイデア	人工衛星落とす「落火生」	高知工科大学 森永隆稔、川隅慎司、埜口和弥、和泉好則、山岡勝、近藤裕士
	ジュニア部門奨励賞	ジュニア	品種改良衛星	山口県立厚狭高等学校 篠田匡史、篠田翔平、西森実穂子、沖本亜由美、阿部美弥子、植田奈津美、井上真理子、河本雄貴、西知行、藤村直裕
マッスルカーニバル			神奈川県立神奈川総合産業高等学校 北崎亜唯斗、石墨大地、滝沢由彬、鈴木諒、山本翔吾、佐藤叶太	
宇宙医学推進衛星			群馬県立前橋工業高等学校 須田泰行	

回数	賞名	部門	作品名	学校名及び参加者
第15回 (2007年)	設計大賞	設計	宇宙ほたる	名古屋大学大学院 高塚直樹、木全敏章、米原慧紀、金炯鎮、富田昌美、中山佳洋、藤井悠太
	アイデア大賞	アイデア	金星大気の空力加熱測定惑星 VADER	津山工業高等専門学校 三浦陽比古、原田匠、柴田悠次、廣野有基、丸山寛輝、水嶋祐弥、青井一樹、藤原裕也、渡邊優人
	ジュニア部門賞	ジュニア	YAGO	神奈川県立神奈川総合産業高等学校 増淵夢丸、野呂未来、田中瀨菜、古山綾香、中村翠、大符涼音、金子洋大、平野早紀、比嘉杏子
	日本機械学会 宇宙工学部門表彰 スペースロケットの部	アイデア	イオ火山噴煙回収衛星「かすみ」	東京大学大学院 井手和幸、崔大宇
	日本航空宇宙学会賞	アイデア	宇宙野菜工場 (Made in Space)	鳥羽商船高等専門学校 三村恭弘、弓場豊大、宮本賢太郎、伊藤有基、今井優志、濱口亮太、三宅俊哉、刑部宏亮、伊藤友仁
	電子情報通信学会賞	アイデア	深宇宙高精度位置決定システム	九州大学大学院 宮田喜久子、加藤貴裕、三樹裕也、有吉雄哉、大西俊輔、近藤泰、森永幸
	地球電磁気・地球惑星圏学会賞	アイデア	オールト雲観測衛星「てんぐ」	慶應義塾大学大学院 田中雅貴、七森泰之、増田大雅、楠田洋一郎
	日本天文学会賞	アイデア	月面電波天文台「すぶりんぐはずかむ〜ん」	高知工業高等専門学校 久保洋晶、東純平、今井雅文、中田祐樹
ジュニア部門奨励賞	ジュニア	strike ball	神奈川県立神奈川総合産業高等学校 芦村成寿、竹内翔平、鎌田哲人、堂本航大、清水太樹、川崎雄樹、高橋洋、山崎知里、鈴木泰樹、小澤亜香里	
	ジュニア	マッスルリリュージョン	神奈川県立神奈川総合産業高等学校 原田愛実、笹田悠美子、小澤礼穂、大澤俊介、橋本邦雄、友成恭介、田口礼、岩崎詩穂、平野理沙、高尾智希	
	ジュニア	DROPS〜デプリの雫〜	香川県立丸亀高等学校 森里文哉、沖津陽香、鎌谷裕子、横関幸久、浅野成美、荒木英恵	
第16回 (2008年)	設計大賞	設計	立体編成飛行衛星「TETRA」	東京工業大学大学院 水沼慎太郎、川久保学、稲川慎一、三浦尚幸、久我楽南、秋山恭平、木佐允彦
	アイデア大賞	アイデア	HATCH	名古屋市立大学大学院 原佑希、田辺章司、濱口皓太、森隆志、嶋野宇一郎、平井里奈、朴東錫、國本桂史
	ジュニア部門賞	ジュニア	宇宙での再生医療	山口県立厚狭高等学校 松本千恵、足立弥代、太田ひかり、河上嵩、植田宏伸、折込正太郎、北村直樹、春口美沙登
	日本機械学会 宇宙工学部門表彰 スペースロケットの部	アイデア	月面における微小天体2次散乱物の調査計画	東京工業大学 木佐允彦、川久保学、赤城弘樹、岡田佑樹、原口大輔、水沼慎太郎
	日本航空宇宙学会賞	アイデア	月周回小型衛星	東京大学大学院/創価大学大学院/九州大学大学院/大阪府立大学大学院/秋田大学 草川靖太、山本典子、三樹裕也、古川琢也、小林さやか、鈴木晴隆
	電子情報通信学会賞	設計	北辰	名古屋大学大学院 木全敏章、中山佳洋、富田昌美、稲波大悟、島倉諭、林正樹、船尾祐揮、松島寛樹、森島駿一、若杉一真
	地球電磁気・地球惑星圏学会賞	設計	太陽極大期における放射線測定衛星「ソラマメ」	大阪府立大学 藤本卓也、江藤力、福西瑛司、磯野隆章、小野達也、荘司大輔、田中康平、柳田将志、小泉拓郎
	日本天文学会賞	アイデア	黄道面脱出型天文観測探査機 high-Z	東京大学/総合研究大学院大学 津村耕司、中宮賢樹、南部陽介
	宇宙科学振興会賞	アイデア	CIROS衛星	防衛大学校 渡辺聡一、高野泰典
	日本宇宙フォーラムジュニア賞	ジュニア	〜HAE〜宇宙への進出	東京都立八王子東高等学校 西賢太郎、櫻井祐也、玉井速汰
	ジュニア部門奨励賞	ジュニア	宇宙で生物は成長できるのか	立命館高等学校 島本優太郎
		ジュニア	泡につまった不思議	広島県立広島国泰寺高等学校 南結香子
ジュニア		無重量状態でのゾウリムシの観察	広島県立広島国泰寺高等学校 佐藤有理	
最優秀模型賞	アイデア	月面における微小天体2次散乱物の調査計画	東京工業大学 木佐允彦、川久保学、赤城弘樹、岡田佑樹、原口大輔、水沼慎太郎	
第17回 (2009年)	設計大賞	設計	該当なし	
	アイデア大賞	アイデア	小惑星サンプル回収機「SPIDER」	東京工業大学 石坂和也、森下拓往、北晃治、大橋太郎、高岡峻一、山隅允裕、中村淳、宮崎哲郎
	ジュニア部門賞	ジュニア	微小重力場における煙の拡散	京都府立洛北高等学校 山口晴生、野口美紗都、壁阿紀、川内瑠奈、松本理沙、森田健斗、竹村祐亮
	日本機械学会 宇宙工学部門表彰 スペースロケットの部	アイデア	小惑星サンプル回収機「SPIDER」	東京工業大学 石坂和也、森下拓往、北晃治、大橋太郎、高岡峻一、山隅允裕、中村淳、宮崎哲郎
	日本航空宇宙学会賞	設計	ϵ -SAT 月詠	名古屋大学大学院 若杉一真、西面敦義、稲波大悟、木村将哉、寺部亮佑、郭沃圭、北村憲司、宮北健、宮園恒平、木全敏章
	電子情報通信学会賞	アイデア	みんなの宇宙絵本	鳥羽商船高等専門学校 岡田翼、山口康太、松本裕介、ファミ フィホアン、亀川歩惟、伊藤友仁
	地球電磁気・地球惑星圏学会賞	設計	太陽偏光分光観測衛星「FLARE」	首都大学東京大学院 黄谷敬紀、猪股壮太、田中純平、浅沼匡、岡野仁庸、花田行弥、鈴木信義、小杉幸寛、吉田翔
	日本天文学会賞	設計	太陽偏光分光観測衛星「FLARE」	首都大学東京大学院 黄谷敬紀、猪股壮太、田中純平、浅沼匡、岡野仁庸、花田行弥、鈴木信義、小杉幸寛、吉田翔
	宇宙科学振興会賞	ジュニア	宇宙での生物の成長を細胞・組織レベルから	立命館高等学校 島本優太郎
	日本宇宙フォーラム賞	アイデア	SPACE OFURO	日本大学大学院 池田雅央、伊藤美樹、加瀬康裕、早瀬亮
最優秀模型賞	アイデア	SPACE OFURO	日本大学大学院 池田雅央、伊藤美樹、加瀬康裕、早瀬亮	

回数	賞名	部門	作品名	学校名及び参加者
第18回 (2010年)	設計大賞	設計	バイナリブラックホール探査衛星「ORBIS」	首都大学東京 花田行弥、浅沼匡、岡野仁庸、杉山透、鈴木信義、石井亮介、内田佳秀、小松一史、養 王田一尚、若林祐介
	アイデア大賞	アイデア	該当なし	
	ジュニア部門賞	ジュニア	宇宙水族館	山口県立山口高等学校 池田慧、田中翔一朗、陳育勤、桐原史瑛、西山祐斗、大藏孝太、石井正哉、大野善彦
	日本機械学会 宇宙工学部門表彰 スペースロテアの部	アイデア	微生物観測衛星～Teikyo Sat～	帝京大学 南茂司、佐野智紀、伊東晃平、狩谷祐輔、伊藤篤史、酒本隆史、玉井智久、樋口美菜 子
	日本航空宇宙学会賞	設計	ブラックアウト回避実験衛星「TWINS」	名古屋大学大学院 西面敦義、上野宙輝、大飼耕平、服部友哉、青野正寛、市原大輔、栗原理也、岡原卓 矢、鈴木秀明、森拓也
	電子情報通信学会賞	設計	こもれび	信州大学大学院 岡本賢太、増田秀和、郡真吾、篠原正樹、堀聖弘、亀村誠人、若山裕記、岡野恵至、東 川千夏
	地球電磁気・地球惑星圏学 会賞	アイデア	電離圏観測衛星群 Ionoss	防衛大学校 石黒巧真、滝口謙介、齋藤健太
	日本天文学会賞	設計	バイナリブラックホール探査衛星「ORBIS」	首都大学東京大学院 花田行弥、浅沼匡、岡野仁庸、杉山透、鈴木信義、石井亮介、内田佳秀、小松一史、養 王田一尚、若林祐介
	宇宙科学振興会賞	ジュニア	火星に存在する生命の探査	大阪電気通信大学高等学校 大西耕平、藤原拓矢、星野大地、土谷圭亮
	日本宇宙フォーラム賞	アイデア	衛星コンステレーションによる津波観測	東京工業大学大学院 小宮悠太、神宮健、小俣正輝、関口翔太、西原俊幸、牟田梓、森井翔太
	奨励賞	アイデア	宇宙用携帯脱臭装置	鳥羽商船高等専門学校 山口康太、野呂泰史、青木元、伊藤友仁
最優秀模型賞	設計	バイナリブラックホール探査衛星「ORBIS」	首都大学東京大学院 花田行弥、浅沼匡、岡野仁庸、杉山透、鈴木信義、石井亮介、内田佳秀、小松一史、養 王田一尚、若林祐介	
第19回 (2011年)	設計大賞	設計	電気力学テザー実証衛星「Pisces」	名古屋大学大学院 岡原卓矢、中島博文、齊川秀司、鈴木秀明、鴨志田和彦、坂本拓史、藤井健太、食野 吉史
	アイデア大賞	アイデア	小惑星深部CT観測衛星「ACTIS」	東京工業大学大学院 本田瑛彦、宮本大樹、朝賀龍太郎、小笠原一憲
	ジュニア大賞	ジュニア	ヒドラの重力走性	山口県立山口高等学校 池田慧、陳育勤、田中翔一朗、桐原史瑛、中野真凜、安部日向子、林美鈴、安永さくら
	日本機械学会 宇宙工学部門表彰 スペースロテアの部	設計	微小デブリ環境モニタリング	九州大学大学院 上津原正彦、土井彰、有吉雄哉、田川真、堤祐樹、日南川英明、池田沙織、陳泓儒、池 村晋吾、中庭好崇
	日本航空宇宙学会賞	アイデア	月面基地におけるスターリング発電システ ム	徳山工業高等専門学校 大山達也、森本祐平、有金聡、廣政拓郎
	電子情報通信学会賞	アイデア	月エネルギー伝送衛星AMATELUS	東京工業大学大学院 荒川清一郎、武井悠人、堅田佑樹、川口正浩
	地球電磁気・地球惑星圏学 会賞	アイデア	ラグランジュポイント衛星「LAPOS」	高知工業高等専門学校 福島光一、東瑞樹、滝口彰宏、野中貴元
	日本天文学会賞	アイデア	小惑星深部CT観測衛星「ACTIS」	東京工業大学大学院 本田瑛彦、宮本大樹、朝賀龍太郎、小笠原一憲
	宇宙科学振興会賞	アイデア	Blue Space Ratio	名古屋市立大学大学院 山下利佳、城愛美、中島徳士、福永祐希、中尾知世、江口奈津美、落合章吾
	日本宇宙フォーラム賞	ジュニア	ヒドラの重力走性	山口県立山口高等学校 池田慧、陳育勤、田中翔一朗、桐原史瑛、中野真凜、安部日向子、林美鈴、安永さくら
	ジュニア部門奨励賞	ジュニア	SATOM-X(サトム エックス)	岐阜県立高山工業高等学校 熊崎大輔、後藤和樹、細江亮汰、山腰成美、南裕介、松葉貴信、藤本港、細江信二
		ジュニア	木星探査機 Hooke	東京都立戸山高等学校 大村徹、菅原麻莉
		ジュニア	月面情報局	長野県伊那北高等学校 北原葉那美、高橋勇人、林将太、宮澤翼矢、松島梨野、上條圭子、木下優奈、原田拓 海、理橋優希、小松智帆
最優秀模型賞	アイデア	月面基地におけるスターリング発電システ ム	徳山工業高等専門学校 大山達也、森本祐平、有金聡、廣政拓郎	

回数	賞名	部門	作品名	学校名及び参加者
第20回 (2012年)	設計大賞	設計	該当なし	
	アイデア大賞	アイデア	月の縦孔・溶岩チューブ探査機「Diana」	徳山工業高等専門学校 有金聡、大山達也、森本祐平、國次佑輔、穰吉真矢、御手洗真人
	ジュニア大賞	ジュニア	コバンザメロボット	山口県立山口高等学校 赤崎剛、金石暁典、田中沙耶香、陳育勳、池田慧、田中翔一郎、山本賢、中野真凜、安部日向子、林美鈴
	日本機械学会 宇宙工學部門表彰 スペースロケットの部	アイデア	デブリ軌道変更衛星	防衛大学校 安平浩義、渡邊貴敏、ゲンバタインロン
	日本航空宇宙学会賞	設計	レーザー送電実証衛星「Prometheus」	名古屋大学大学院 藤井健太、塚原拓矢、浅野雄太、森本祐貴、浅井崇、吉田健太、松井慎太郎
	電子情報通信学会賞	アイデア	ISM-SC (Interesting Space Mission-Spacecraft)	東京都市大学 小林久廣、中山真敏、江藤智哉、加藤千智、平本成実
	地球電磁気・地球惑星圏学会賞	設計	CKUSAT (Cheng Kung University SATellite)	National Cheng Kung University Yun-Peng Tsai, Hui-Kuan Fang, Hoang The Huynh, Jiun-Hao Huang, Bo-Yi Tseng, Tse-Wei Wu, Jesus Sanchez, Ting-Yang Lin, Yan-Wei Tseng
	日本天文学会賞	アイデア	月の縦孔・溶岩チューブ探査機「Diana」	徳山工業高等専門学校 有金聡、大山達也、森本祐平、國次佑輔、穰吉真矢、御手洗真人
	宇宙科学振興会賞	ジュニア	スペーススリーフ	山口県立山口高等学校 金石暁典、赤崎剛、田中沙耶香、陳育勳、池田慧、田中翔一郎、飯田直子、中野真凜、安部日向子、林美鈴
	日本宇宙フォーラム賞	ジュニア	コバンザメロボット	山口県立山口高等学校 赤崎剛、金石暁典、田中沙耶香、陳育勳、池田慧、田中翔一郎、山本賢、中野真凜、安部日向子、林美鈴
	審査委員長特別賞	設計	CKUSAT (Cheng Kung University SATellite)	National Cheng Kung University Yun-Peng Tsai, Hui-Kuan Fang, Hoang The Huynh, Jiun-Hao Huang, Bo-Yi Tseng, Tse-Wei Wu, Jesus Sanchez, Ting-Yang Lin, Yan-Wei Tseng
	奨励賞	設計	放電画像撮影衛星「鳳龍式号-X」	九州工業大学大学院 世利祐樹、岩井俊輔、奥村裕太、高橋明敏、木元新伍、田中雄三、田中有十夢、石原弘士、西尾治果、山本一貴
		アイデア	資源探査機『Blue Bird』	帝京大学 猪野雄伍、渡邊拓也、高橋亮、松岡航、齊藤僚也、大津輝敏
		アイデア	宇宙探査機のためのレーザー基地衛星	防衛大学校 ゲンバタインロン、安平浩義、渡邊貴敏
アイデア		宇宙で淹れたてのコーヒーを！	鳥羽商船高等専門学校 吉村美紅、小山恵里、中西雄大、岡崎研人、杉浦秀哉、伊藤友仁	
ジュニア部門奨励賞	ジュニア	宇宙太陽光発電技術実証衛星『STEPs』	四天王寺高等学校/奈良工業高等専門学校/横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 山川真以子、三上拓朗、原勇心、	
	ジュニア	Return-E	吉祥女子高等学校/津山工業高等専門学校 植村千尋、内田悠斗	
	ジュニア	宇宙用調理器具の開発～安全刃物を～	東京工業大学附属科学技術高等学校/埼玉県立熊谷高等学校 近藤那央、関航佑	
最優秀模型賞	アイデア	ISM-SC (Interesting Space Mission-Spacecraft)	東京都市大学 小林久廣、中山真敏、江藤智哉、加藤千智、平本成実	
第21回 (2013年)	設計大賞	設計	Atmosphere Ionosphere Coupling Explorer (AICE)	National Cheng Kung University Peng Kang-Ming, Lin Ting-Yang, Jesus Alberto Sanchez Pacheco, Tsai Chiung-Hui, Chen Li-Wei, Fang Hui-Kuan, Lin Chia-Ting, Yeh Tsung-Lin, Chen Ming-Te
	アイデア大賞	アイデア	月面砂掘削機「月面潜行体1号」	立命館大学大学院 中島翔太、横山隆明、建山和由
	ジュニア大賞	ジュニア	お家で簡単 無重力農園	長崎県立長崎西高等学校 福澤真知子、森川竣介、松尾凜汰朗、春野純、太田勝之、横山晃生、鈴木翔
	日本機械学会 宇宙工學部門表彰 スペースロケットの部	アイデア	太陽炉を用いた火星での製鐵	群馬工業高等専門学校 新井浩平、天野俊一、岩崎真也、上杉広大
	日本航空宇宙学会賞	設計	地震先行電離圏異常検知衛星	東京学芸大学/創価大学/東海大学/芝浦工業大学/慶應義塾大学 須藤雄志、門倉美幸、東郷翔帆、天白勲、松井一吹、川本直樹、小野優子、由井庸介、大河原正篤、熊川遠太郎
	電子情報通信学会賞	アイデア	地上電波利用電離圏リモートセンシング衛星	電気通信大学 猪狩靖弘、山中拓也、山崎琢也、横山貴文、渡口暢人、藤井厚太郎
	地球電磁気・地球惑星圏学会賞	設計	地球周辺磁場マップ作成衛星「Pyxis」	東海大学大学院 小林正和、近藤圭佑、内田H.陽仁、草野悠太、高木啓佑、水森主、吳喆、内藤佑貴、福田吉記、桑原瑞季
	日本天文学会賞	設計	軌道上微粒子サンプルリターン衛星「BALAENA」	日本大学 吉原嘉唯、河原林大思、関口幸輝、立松裕基、田村明寛、山田諭、山田将太
	宇宙科学振興会賞 (ジョイント受賞)	ジュニア	全国の高校生でつくる小型人工衛星システム	長野県長野工業高等学校 松澤千晶、吉澤美菜
	日本宇宙フォーラム賞	ジュニア	高校生が共同利用できる小型通信衛星	長崎県立長崎西高等学校 春野純、太田勝之、松尾凜汰朗、福澤真知子、森川竣介、鈴木翔、横山晃生
		ジュニア	重力から解き放たれた宇宙での思考	山口県立山口高等学校 金石暁典、岩崎七海、吉信智史、陳育勳、末永大良、高橋遼太郎、金谷啓之、富田耕作、小林遼、赤崎剛
	奨励賞	アイデア	無重力下の噴水で癒し空間	摂南大学 森田真維斗、岩佐六郎太、
		アイデア	木星電波観測システムLIMITLESS	高知工業高等専門学校 島内良章、森國健吾、南光成
		アイデア	姿勢制御回復衛星「てだすけ」	東京都市大学 内田光、横松卓、伊藤和樹、黒澤宏太、西島彬、林貴裕、和田拓弥
ジュニア部門奨励賞	ジュニア	災害時用FMラジオ衛星	茗溪学園高等学校 皆川勇太、古谷泰斗	
	ジュニア	花咲く人工衛星	山口県立山口高等学校 陳育勳、金谷啓之、金石暁典、赤崎剛、末永大良、高橋遼太郎、富田耕作、吉信智史、岩崎七海、小林遼	
最優秀模型賞	設計	軌道上微粒子サンプルリターン衛星「BALAENA」	日本大学 吉原嘉唯、河原林大思、関口幸輝、立松裕基、田村明寛、山田諭、山田将太	

回数	賞名	部門	作品名	学校名及び参加者
第22回 (2014年)	設計大賞	設計	該当なし	
	アイデア大賞	アイデア	五輪紋章創造衛星 武蔵	東京工業大学大学院 田中優一郎、俄京佑、河尻翔太、長洲孝、河野洋行、金柔真、鈴木聡太、濱島大輝、上田直樹、太田佳
	ジュニア大賞	ジュニア	宇宙植物学実験の新たな実施方法の提案	長崎県立長崎西高等学校 吉田涼佑、檜龍太、森永俊太郎、綾部晃大、冨田夏帆、新井絢子、森愛月
	日本機械学会 宇宙工学 部門表彰 スペースフロンティア の部	アイデア	月面の建材製造プラントと着陸港建設ロー バ	東京工業大学大学院 古賀洋一郎、松下将典、大沢耕介、横松卓、QURUI、鮫島三郎、倉重宏康、古賀将哉
	日本航空宇宙学会賞	アイデア	H2Aを再利用した軌道上サービス実証実験	東京工業大学大学院 濱島大輝、田中優一郎、武井悠人、本田瑛彦、唐鎌聡太郎、吉川健人、QURUI、上田直樹、小沢堯也、GEERS Martijn Arjan
	電子情報通信学会賞	アイデア	無人航空機と連携したモニタリング衛星	防衛大学校大学院 坂本諒太郎、麻生篤、宮野裕貴、伊藤駿、柴原健人
	地球電磁気・地球惑星圏学 会賞	アイデア	五輪紋章創造衛星 武蔵	東京工業大学大学院 田中優一郎、俄京佑、河尻翔太、長洲孝、河野洋行、金柔真、鈴木聡太、濱島大輝、上田直樹、太田佳
	日本天文学会賞	設計	衛星-地上間光通信技術実証キューブ サット "OPT-CUBE"	東北大学大学院 藤田伸哉、郷内稔也
	宇宙科学振興会賞	ジュニア	磁気トルカ方式姿勢制御の簡素化について	長崎県立長崎西高等学校 横山晃生、井手祐太、坂本悠衣、服部瑛一郎、山本峻太郎
	日本宇宙フォーラム賞	ジュニア	ブランナリアを用いたバイオアッセイ	山口県立山口高等学校 金谷啓之、藤村志穂、原田要、末永大良、高橋遼太郎、福本朱夏、岡原潤、冨田耕作、 増田祐一郎、森田孝明
	審査委員長特別賞	設計	衛星-地上間光通信技術実証キューブ サット "OPT-CUBE"	東北大学大学院 藤田伸哉、郷内稔也
		ジュニア	次世代の新構想 膨張性流体防御シールド	立命館守山高等学校 竹本智志
		ジュニア	火星の環境における植物の栽培方法の検討	熊本県立第二高等学校 脇山加奈子、佐藤佑季乃、岩永清沙
	奨励賞	設計	ソーラーセイルによる月周回軌道遷移実証 衛星	名古屋大学大学院 幅口雄太、堀部貴雅、立花将規、山田裕也、中村和也、松井慎太郎、岩崎慶多、佐藤 洗貴、富岡拓也、新居舜
		アイデア	宇宙での粉体操作	鳥羽商船高等専門学校 西川農也、石島拓哉、杉浦秀也、吉川波希、伊藤友仁
ジュニア部門奨励賞	ジュニア	微小重力学習システムの開発	和歌山県立海南高等学校 清水佳祐、佐々見和也、上野大和、川尻悠真、谷口陽亮、西本太一、福本大智	
	ジュニア	宇宙空間での洗濯と分解	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 根本研司	
	ジュニア	イシマキガイの行動を応用した探査ロボット	山口県立山口高等学校 濱田尚輝、村田康徳、中野海藍、松本久也、川上聡生、原田要、金谷啓之、藤村志穂、 福本朱夏、岡原潤	
最優秀模型賞	アイデア	五輪紋章創造衛星 武蔵	東京工業大学大学院 田中優一郎、俄京佑、河尻翔太、長洲孝、河野洋行、金柔真、鈴木聡太、濱島大輝、上田直樹、太田佳	

応募件数と最終審査会の発表件数

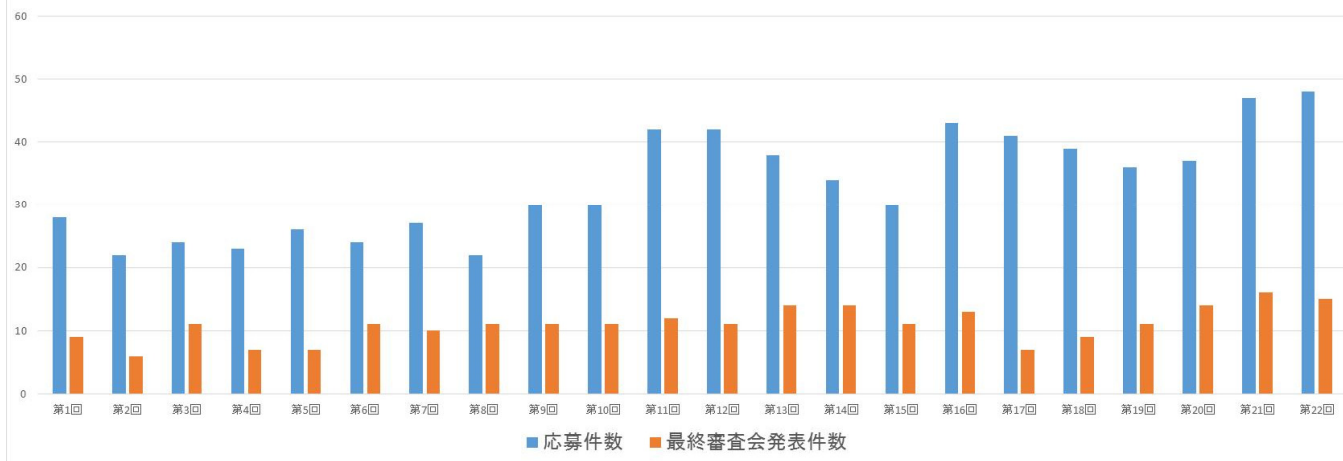
	応募件数			最終審査会発表件数			総数	
	設計	アイデア	ジュニア	設計	アイデア	ジュニア	応募件数	発表件数
第1回	10	18	-	4	5	-	28	9
第2回	7	15	-	2	4	-	22	6
第3回	4	20	-	4	7	-	24	11
第4回	5	18	-	3	4	-	23	7
第5回	8	18	-	2	5	-	26	7
第6回	7	17	-	4	7	-	24	11
第7回	10	17	-	5	5	-	27	10
第8回	3	19	-	3	8	-	22	11
第9回	5	25	-	3	8	-	30	11
第10回	7	23	-	5	6	-	30	11
第11回	13	29	-	6	6	-	42	12
第12回	14	28	-	5	6	-	42	11
第13回	8	21	9	5	5	4	38	14
第14回	7	19	8	5	5	4	34	14
第15回	3	19	8	1	6	4	30	11
第16回	5	22	16	3	5	5	43	13
第17回	5	29	7	2	3	2	41	7
第18回	8	22	9	3	4	2	39	9
第19回	6	20	10	2	5	4	36	11
第20回	3	22	12	3	6	5	37	14
第21回	8	23	16	4	6	6	47	16
第22回	5	20	23	2	5	8	48	15

受賞件数

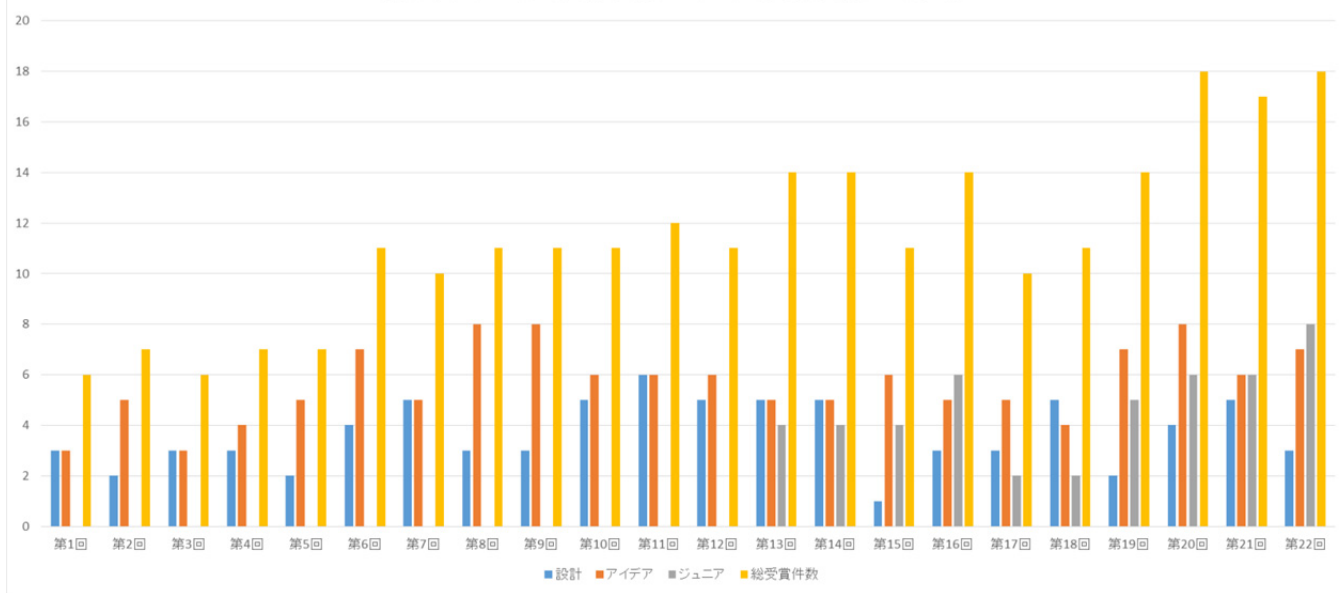
※1作品の複数賞受賞を含む

	受賞件数			総受賞件数
	設計	アイデア	ジュニア	
第1回	3	3	-	6
第2回	2	5	-	7
第3回	3	3	-	6
第4回	3	4	-	7
第5回	2	5	-	7
第6回	4	7	-	11
第7回	5	5	-	10
第8回	3	8	-	11
第9回	3	8	-	11
第10回	5	6	-	11
第11回	6	6	-	12
第12回	5	6	-	11
第13回	5	5	4	14
第14回	5	5	4	14
第15回	1	6	4	11
第16回	3	6	5	14
第17回	3	5	2	10
第18回	5	4	2	11
第19回	2	7	5	14
第20回	4	8	6	18
第21回	5	6	6	17
第22回	3	7	8	18

応募件数と最終審査会発表件数の推移



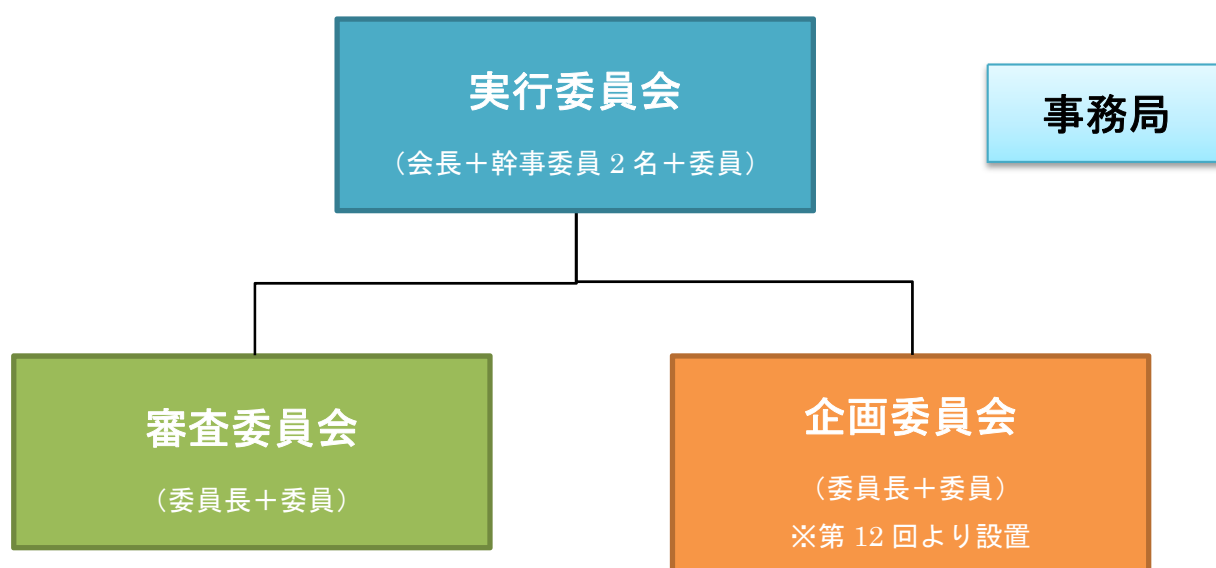
各部門の受賞件数と総受賞件数の推移



3. 運営体制

衛星設計コンテストは、実行委員会・審査委員会・企画委員会の3つの委員会から成り立ち、委員は日本機械学会、日本航空宇宙学会、電子情報通信学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、日本天文学会、宇宙航空研究開発機構、宇宙科学振興会、日本宇宙フォーラムの主催8学会・機関からの派遣要員並びに有識者から成り立っている。また、日本宇宙フォーラムが事務局を担当し、委員会との調整・学生対応などコンテストに関わる事務作業を担っている。

運営体制図



各委員会の歴代委員は次頁以降の通り。

このほかにも、以下の企業・団体等を含む、多数の企業・団体等から人材・金銭等で様々なご支援をいただき実施している。

三菱電機株式会社、日本電気株式会社、株式会社東芝、NEC 東芝スペースシステム株式会社、情報通信研究機構 (NICT、旧：通信総合研究所 CRL)、株式会社新興出版社啓林館、有限会社テラテクニカ、公益財団法人日本無線協会、モバイルコンピューティング推進コンソーシアム、株式会社エーディー、株式会社テクノソルバ、株式会社ビー・シー・シー ほか。

歴代運営委員名簿 (第1回～第5回まで)

役職/所属(推薦機関)	第1回:H5	第2回:H6	第3回:H7	第4回:H8	第5回:H9
総務担当					
小型衛星研究会			中島 厚	中島 厚	中島 厚
日本機械学会	狼 嘉彰 奥村 幹也 桑原 武夫	狼 嘉彰 奥村 幹也	奥村 幹也	奥村 幹也 目黒 在	奥村 幹也 目黒 在
日本航空宇宙学会				山本 善一	山本 善一
電子情報通信学会	渡辺 光庸		渡辺 光庸		
科学技術広報財団		大山 香			
日本宇宙フォーラム			福田 徹	福田 徹	
企画・運営担当					
日本機械学会	中須賀 真一 妻木 伸夫	中須賀 真一 水本 宗男	水本 宗男		水本 宗男
日本航空宇宙学会	橋本 英一 角田 博明	角田 博明 熊谷 博貴	中須賀 真一 目黒 在 熊谷 博貴	中須賀 真一 熊谷 博貴	中須賀 真一
電子情報通信学会				島田 一雄 西堀 俊幸	島田 一雄 西堀 俊幸
広報・渉外担当					
日本機械学会	竹ヶ原 春貴	竹ヶ原 春貴	竹ヶ原 春貴	竹ヶ原 春貴	竹ヶ原 春貴
日本航空宇宙学会	鈴木 良昭	鈴木 良昭	鈴木 良昭	有本 好徳	有本 好徳
財務担当					
科学技術広報財団	佐伯 邦子	大山 香			
日本宇宙フォーラム			福田 徹	福田 徹	辻野 照久
技術援助担当					
小型衛星研究会	中島 厚	中島 厚	中島 厚	中島 厚	
日本機械学会	渡辺 直行	渡辺 直行	渡辺 直行		
日本航空宇宙学会			中須賀 真一	中須賀 真一	
電子情報通信学会			前田 惟裕		
宇宙開発事業団				前田 惟裕	前田 惟裕 渡辺 勝巳

歴代企画委員名簿 (第12回～現在)

役職/所属(推薦機関)	第12回:H16	第13回:H17	第14回:H18	第15回:H19	第16回:H20	第17回:H21
委員長	川勝 康弘 日本航空宇宙学会	川勝 康弘 日本航空宇宙学会	川勝 康弘 日本航空宇宙学会	河野 功 日本航空宇宙学会	目黒 在 日本機械学会	目黒 在 日本機械学会
日本機械学会	目黒 在 栗林 豊	目黒 在 栗林 豊	目黒 在 栗林 豊	目黒 在 栗林 豊	栗林 豊	-
日本航空宇宙学会	河本 聡美	河本 聡美	河本 聡美	-	河野 功	河野 功
電子情報通信学会	木村 真一	木村 真一	木村 真一	高橋 卓	高橋 卓	高橋 卓
地球電磁気・地球惑星圏学会	細川 敬祐 高橋 幸弘	細川 敬祐 高橋 幸弘	細川 敬祐 高橋 幸弘	細川 敬祐 高橋 幸弘	細川 敬祐 高橋 幸弘	中田 裕之
日本天文学会	-	-	-	片岡 淳	三谷 烈史	三谷 烈史
宇宙航空研究開発機構	-	-	-	-	中村 全宏	中村 全宏
日本宇宙フォーラム	-	-	-	武石 みゆき	武石 みゆき	武石 みゆき

役職/所属(推薦機関)	第18回:H22	第19回:H23	第20回:H24	第21回:H25	第22回:H26
委員長	目黒 在 日本機械学会	目黒 在 日本機械学会	目黒 在 日本機械学会	河野 功 日本航空宇宙学会	河野 功 日本航空宇宙学会
日本機械学会	-	-	-	吉原 圭介	吉原 圭介
日本航空宇宙学会	河野 功	河野 功	河野 功	-	-
電子情報通信学会	高橋 卓	高橋 卓	高橋 卓	高橋 卓	高橋 卓
地球電磁気・地球惑星圏学会	中田 裕之	中田 裕之	中田 裕之	中田 裕之	中田 裕之
日本天文学会	三谷 烈史	江副祐一郎	江副祐一郎	谷津 陽一	谷津 陽一
宇宙航空研究開発機構	荒川 聡	川崎 朋実	川崎 朋実	川崎 朋実	川崎 朋実
日本宇宙フォーラム	武石 みゆき	若松 宏昌	若松 宏昌	若松 宏昌	若松 宏昌

歴代事務局名簿 (第5回～現在)

第5回:H16	第6回:H10	第7回:H11	第8回:H12	第9回:H13	第10回:H14	第11回:H15	第12回:H16
辻野 照久	京田 綾子 辻野 照久	京田 綾子 辻野 照久	安藤 恵美子	安藤 恵美子	安藤 恵美子	安藤 恵美子	吉田 安徳 武石 みゆき
第13回:H17	第14回:H18	第15回:H19	第16回:H20	第17回:H21	第18回:H22	第19回:H23	第20回:H24
武石 みゆき 小沢 美治夫	武石 みゆき 池戸 康夫	武石 みゆき 渡辺 勝巳	武石 みゆき 渡辺 勝巳	武石 みゆき	武石 みゆき	武石 みゆき 若松 宏昌 榎 知子	若松 宏昌 榎 知子
第21回:H25	第22回:H26	第23回:H27					
若松 宏昌 榎 知子	若松 宏昌 成田 知人 榎 知子	若松 宏昌 成田 知人 榎 知子					

衛星設計コンテスト 歴代審査委員名簿(1/2)

役職／所属 (推薦機関)		第1回 H5	第2回 H6	第3回 H7	第4回 H8	第5回 H9	第6回 H10	第7回 H11	第8回 H12	第9回 H13	第10回 H14
審査委員長		林 友直	林 友直	林 友直	西村 純	西村 純	西村 純	三浦 公亮	三浦 公亮	三浦 公亮	秋葉 謙二郎
ISAS	11回よりJAXA	中谷 一郎	的川 泰宣	的川 泰宣	的川 泰宣	橋本 正之	橋本 正之 吉川 真	橋本 正之 吉川 真	吉川 真	齋藤 宏文	齋藤 宏文
NASDA		毛利 衛	中丸 邦男	中丸 邦男	中丸 邦男	草薙 道郎 P.Collins	草薙 道郎	狼 嘉彰	狼 嘉彰	狼 嘉彰	橋本 英一
日本機械学会		伊藤 献一	伊藤 献一	茂原 正道	小松 敬治	富田 信之	室津 義定	大久保 博志	大久保 博志	小松 敬治	小松 敬治
日本航空宇宙学会		堀川 康	齋藤 宏文	長島 隆一	小山 正人	山本 東光	松本 甲太郎	(生田 宏二郎)	生田 宏二郎	谷澤 一雄	谷澤 一雄
電子情報通信学会		前田 惟裕	前田 惟裕	飯田 尚志	飯田 尚志	堀川 康	堀川 康	近藤 倫正	近藤 倫正	長岡 栄	長岡 栄
CRL(12回よりNICT情報 通信研究機構)		-	-	-	-	-	-	-	鈴木 良昭	鈴木 良昭	鈴木 良昭
地球電磁気・地球惑星圏 学会(11回より主催)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日本天文学会 (15回より主催)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日本電気	10回～14回はNTS	黒田 隆二	黒田 隆二	黒田 隆二	折井 武	折井 武	折井 武	白子 悟朗	白子悟朗 (SSC)※	白子悟朗 (SSC)	留目 一英 (NTS)
東芝		-	-	桜木 丈爾	桜木 丈爾 (日本宇宙開発エ ンジニアリング)	桜木 丈爾 (日本宇宙開発 エンジニアリング)	生田 宏二郎	生田 宏二郎	伊藤 浩武	伊藤 浩武	
三菱電機		-	-	-	福島 利夫	福島 利夫	井村 信義	井上 登志夫	井上 登志夫	磯 彰夫	向井 長夫
ジャーナリスト		中富 信夫	中富 信夫	野本 陽代	野本 陽代	立花 隆	立花 隆	立花 隆	-	-	-
有識者		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日本航空宇宙工業会		石崎 幸	石崎 幸	-	-	-	-	-	-	-	-
東海大学		真鍋 瞬治	真鍋 瞬治	真鍋 瞬治	-	-	-	-	-	-	-
NTTワイヤレスシステム研究所		-	-	鮫島 秀一	鮫島 秀一	鮫島 秀一	-	-	-	-	-
NASA/JPL		-	-	-	Ross M.Jones	-	-	-	-	-	-
USEF		-	-	-	-	-	-	-	-	-	金井 宏
科学技術館		-	-	-	-	-	-	-	餌鳥 章男	餌鳥 章男	餌鳥 章男
日本宇宙フォーラム		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※SSC…Shirako Space Consulting

衛星設計コンテスト 歴代審査委員名簿(2/2)

第11回 H15	第12回 H16	第13回 H17	第14回 H18	第15回 H19	第16回 H20	第17回 H21	第18回 H22	第19回 H23	第20回 H24	第21回 H25	第22回 H26
秋葉 隼二郎	秋葉 隼二郎	廣澤 春任	廣澤 春任	廣澤 春任	二宮 敬虔	二宮 敬虔	二宮 敬虔	小山 孝一郎	小山 孝一郎	小山 孝一郎	平子 敬一
齋藤 宏文	橋本 樹明 梶井 誠	橋本 樹明 本間 正修	橋本 樹明 本間 正修	水野 貴秀 本間 正修	水野 貴秀 高畑 博樹	水野 貴秀 高畑 博樹 谷垣 文章	吉光 徹雄 高畑 博樹 谷垣 文章	山下 雅道 吉光 徹雄 平子 敬一	吉光 徹雄 平子 敬一	坂井 真一郎 平子 敬一	坂井 真一郎 藤田 和央
梶井 誠											
吉田 哲二	吉田 哲二	木田 隆	木田 隆	上野 誠也	上野 誠也	栗林 豊	栗林 豊	中村 和行	中村 和行	中村 和行	中村 和行
飯倉 省一	飯倉 省一	飯倉 省一	目黒 在	富田 雅行	富田 雅行	桑尾 文博	桑尾 文博	岩崎 晃	世古 博巳	萩野 慎二	萩野 慎二
前田 惟裕	前田 惟裕	前田 惟裕	鈴木 良昭	小菅 義夫	小菅 義夫	川西 登音夫	川西 登音夫	小瀬木 滋	小瀬木 滋	前田 惟裕	前田 惟裕
鈴木 龍太郎	鈴木 龍太郎	鈴木 龍太郎	田中 正人	田中 正人	田中 正人	鈴木 龍太郎	鈴木 龍太郎	豊嶋 守生	豊嶋 守生	豊嶋 守生	豊嶋 守生
山本 衛	山本 衛	山本 衛	藤本 正樹	小原 隆博	遠山 文雄	遠山 文雄	國分 征	田口 真	田口 真	笠原 禎也	亀田 真吾
-	-	-	-	常田 佐久	井上 允	上野 宗孝	上野 宗孝	村上 敏夫	村上 敏夫	井上 一	井上 一
留目 一英 (NTS)	安達 昌紀 (NTS)	安達 昌紀 (NTS)	安達 昌紀 (NTS)	間瀬 一郎	間瀬 一郎	間瀬 一郎	川口 正芳	川口 正芳	川口 正芳	大塚 聡子	大塚 聡子
向井 長夫	長谷川 光	長谷川 光	長谷川 光	迎 久幸	迎 久幸	迎 久幸	安田 国治	安田 国治	安田 国治	舟生 豊朗	安光 亮一郎
中野 不二男	中野 不二男	中野 不二男	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	山下 雅道	山下 雅道	山下 雅道
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
金井 宏	金井 宏	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	折井 武	折井 武 吉富 進	折井 武 吉富 進	折井 武 吉富 進	北原 正悟 吉富 進	北原 正悟 吉富 進	吉富 進	吉富 進	吉富 進

衛星設計コンテスト 歴代実行委員名簿(1/2)

役職/所属(推薦機関)	第1回 H5	第2回 H6	第3回 H7	第4回 H8	第5回 H9	第6回 H10	第7回 H11	第8回 H12	第9回 H13	第10回 H14
名誉会長	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
実行委員長	齋藤 成文	齋藤 成文	齋藤 成文	齋藤 成文	齋藤 成文	野村 民也	野村 民也	野村 民也	野村 民也	野村 民也
幹事委員	八坂 哲雄 堀川 康 前田 惟裕	八坂 哲雄 齋藤 宏文	八坂 哲雄	八坂 哲雄	八坂 哲雄 中谷 一郎	八坂 哲雄 中谷 一郎	八坂 哲雄 中谷 一郎	八坂 哲雄 中谷 一郎	八坂 哲雄 中谷 一郎	八坂 哲雄 中谷 一郎
日本機械学会	土屋 喜一 谷 順二 田中 正人 福田 収一	平田 賢 谷 順二 下河辺 昭 福田 収一 伊藤 献一	田中 實 谷 順二 下河辺 昭 福田 収一	阿部 裕之 茂原 正道 吉田 和夫 久保 愛三 廣瀬 通孝	岡村 弘之 茂原 正道 山田 元 久保 愛三 廣瀬 通孝	和田 明広 富田 信之	井口 雅一 富田 信之	棚澤 一郎 小松 敬治	小林 敏雄 大久保 博志	伊藤 誼 吉田 哲二
日本航空宇宙学会	加藤 寛一郎 安倍 隆士 東 久雄	小早川 真也 安倍 隆士 長島 隆一 東 久雄	荻野 三郎 長島 隆一 東 久雄 原 宣一	佐藤 淳造 平本 隆 小山 正人 原 宣一	松尾 弘毅 松本 甲太郎 山本 東光	久保田 弘敏 山本 東光	近藤 京平 生田 宏二郎	戸田 勲 伊藤 俊裕	高山 和喜 矢代 清高	的川 泰宣 矢代 清高
電子情報通信学会	大越 孝敬 今井 秀樹 森広 芳照	宮津 淳一郎 小川 圭祐 伊藤 泰彦 片野 忠夫	堀内 和夫 前田 稔 伊藤 泰彦 飯田 尚志	辻井 重男 前田 稔 鮫島 秀一 飯田 尚志	岡村 敏光 堀川 康	長尾 真 有本 好徳	安田 靖彦 近藤 倫正	青木 利晴 近藤 倫正	内藤 喜之 近藤 倫正	羽鳥 光俊 近藤 倫正
地球電磁気・地球惑星圏学会 (11回より参加)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日本天文学会(15回より参加)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ISAS	-	-	中谷 一郎	中谷 一郎	-	-	-	-	-	-
NASDA	JAXA (H15年 3機関統合の 組織変更)		三浦 秀一 岩田 勉	三浦 秀一 岩田 勉	森河 悠 岩田 勉	森河 悠 増田 剛 前田 惟裕 目黒 在 渡辺 勝巳	狼 嘉彰 森河 悠 前田 惟裕	前田 惟裕 橋本 英一 小番 君晴	前田 惟裕 小田 光茂 鎌田 保男	前田 惟裕 野田 篤司 鎌田 保男
NAL			-	-	-	-	中島 厚	中島 厚	中島 厚	中島 厚
宇宙科学振興会	-	-	-	-	-	-	-	-	西村 純	西村 純
日本宇宙フォーラム	-	-	松本 一夫	松本 一夫	松本 一夫	長谷部 成夫	長谷部 成夫	長谷部 成夫	長谷部 成夫	長谷部 成夫
小型衛星研究会	飯田 尚志	飯田 尚志	川田 恭裕	川田 恭裕	林 友直	林 友直	林 友直	林 友直	林 友直	林 友直
科学技術広報財団	桜場 宏一	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道大学	伊藤 献一	伊藤 献一	伊藤 献一	伊藤 献一	伊藤 献一	伊藤 献一	伊藤 献一	伊藤 献一	伊藤 献一	伊藤 献一
東北大学					吉田 和哉	吉田 和哉	吉田 和哉	吉田 和哉	吉田 和哉	吉田 和哉
東京大学					野村 民也	中須賀 真一	中須賀 真一	中須賀 真一	中須賀 真一	三浦 公亮 中須賀 真一
東京工業大学					狼 嘉彰	狼 嘉彰			松永 三郎	松永 三郎
名古屋大学	松崎 雄嗣	松崎 雄嗣	松崎 雄嗣	松崎 雄嗣	松崎 雄嗣	松崎 雄嗣	松崎 雄嗣	松崎 雄嗣	松崎 雄嗣	松崎 雄嗣
京都大学	土屋 和雄 (大阪大学)	土屋 和雄 (大阪大学)	土屋 和雄	土屋 和雄	土屋 和雄	土屋 和雄	土屋 和雄	土屋 和雄	土屋 和雄	土屋 和雄
大阪府立大学	室津 義定	室津 義定	室津 義定	室津 義定	室津 義定		室津 義定	室津 義定		大久保 博志
東京都立科学技術大学 (H17年首都大学東京に統廃 合)	-	-	-	-	-	茂原 正道 竹ヶ原 春貴	茂原 正道 (慶應義塾大) 竹ヶ原 春貴	竹ヶ原 春貴	竹ヶ原 春貴	小島 広久
東京工科大学	-	-	-	-	-	-	-	茂原 正道	茂原 正道	茂原 正道
東京都立航空高专	-	-	-	-	-	島田 一雄	島田 一雄	島田 一雄	島田 一雄	島田 一雄
信州大学	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全国工業高校校長協会	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
台湾國立成功大學	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
創価大学	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日本大学	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
摂南大学	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
九州大学	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
通信総合研究所(CRL)H16年 に情報通信研究機構 (NICT)に組織変更	-	-	-	-	-	-	-	木村 真一	木村 真一	木村 真一
NTT	-	-	-	-	-	-	目黒 在	目黒 在	目黒 在	目黒 在
読売新聞	-	-	-	-	-	-	-	鈴木 千秋	鈴木 千秋	鈴木 千秋
日本無線協会	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SSC ※	-	-	-	-	-	-	-	-	-	白子 悟朗
日本ロケット協会	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※SSC…Shirako Space Consulting

衛星設計コンテスト 歴代実行委員名簿(2/2)

第11回 H15	第12回 H16	第13回 H17	第14回 H18	第15回 H19	第16回 H20	第17回 H21	第18回 H22	第19回 H23	第20回 H24	第21回 H25	第22回 H26
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	林 友直
林 友直	林 友直	林 友直	林 友直	林 友直	林 友直	林 友直	林 友直	林 友直	林 友直	林 友直	折井 武
八坂 哲雄 中谷 一郎	八坂 哲雄 中谷 一郎	八坂 哲雄 中谷 一郎	八坂 哲雄 中谷 一郎	八坂 哲雄 中谷 一郎	八坂 哲雄 目黒 在	齋藤 宏文 目黒 在	齋藤 宏文 目黒 在	齋藤 宏文 目黒 在	齋藤 宏文 目黒 在	齋藤 宏文 中島 厚	齋藤 宏文 中島 厚
田中 重穂 木田 隆	長島 昭 木田 隆	田口 裕也 三澤 正吉	笠木 伸英 三澤 正吉	齋藤 忍 上野 誠也	白鳥 正樹 横井 貴弘	有信 陸弘 石田 良平	松本 洋一郎 石田 良平	佐藤 順一 石田 良平	金子 成彦 石田 良平	矢部 彰 古谷 寛	久保 司郎 古谷 寛
河野 通方 大西 充	長島 利夫 大西 充	小野田淳次郎 稲富 裕光	上田 哲彦 稲富 裕光	河内 啓二 稲富 裕光	石川 隆司 藤田 修	中橋 和博 木村 真一	中道 二郎 木村 真一 (代理:豊嶋守生)	鈴木 真二 岩崎 晃	川口 淳一郎 岩崎 晃	李家 賢一 桜井 誠人	上野 誠也 桜井 誠人
伊賀 健一 長岡 栄	甘利 俊一 長岡 栄	齋藤 忠夫 前田 惟裕	伊澤 達夫 前田 惟裕	富永 英義 前田 惟裕	宮原 英夫 前田 惟裕	青山 友紀 前田 惟裕	津田 俊隆 前田 惟裕	安田 浩 前田 惟裕	吉田 進 前田 惟裕	井上 友二 前田 惟裕	酒井 善則 前田 惟裕
藤井 良一 高橋 幸弘	藤井 良一 高橋 幸弘	本蔵 義守 高橋 幸弘	本蔵 義守 高橋 幸弘	本蔵 義守 高橋 幸弘	歌田 久司 高橋 幸弘	津田 敏隆 長妻 努	津田 敏隆 長妻 努	家森 俊彦 長妻 努	家森 俊彦 長妻 努	中村 正人 坂野井 和代	中村 正人 坂野井 和代
-	-	-	-	土佐 誠 郷田 直輝	土佐 誠 郷田 直輝	國枝 秀世 郷田 直輝	國枝 秀世 郷田 直輝	岡村 定矩 坂尾 太郎	岡村 定矩 坂尾 太郎	櫻井 隆 坂尾 太郎	櫻井 隆 坂尾 太郎
-	野田 篤司 鎌田 保男	野田 篤司 渡辺 勝巳 中島 厚	野田 篤司 渡辺 勝巳 中島 厚	野田 篤司 渡辺 勝巳 中島 厚	広浜 栄次郎 平子 敬一 中島 厚	齋藤 宏文 広浜 栄次郎 平子 敬一	広浜 栄次郎 平子 敬一	広浜 栄次郎 井上 浩一 松永 三郎	広浜 栄次郎 井上 浩一 松永 三郎	広浜 栄次郎 井上 浩一 松永 三郎	広浜 栄次郎 井上 浩一 松永 三郎
中島 厚											
西村 純	西村 純	西村 純	西村 純	西村 純	西村 純	鶴田 浩一郎	鶴田 浩一郎	鶴田 浩一郎	長瀬 文昭	長瀬 文昭	長瀬 文昭
長谷部 成夫	寺門 邦次	寺門 邦次	寺門 邦次	寺門 邦次	矢代 清高	矢代 清高	矢代 清高	矢代 清高	北原 正悟	植田 秀史	植田 秀史
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伊藤 献一	伊藤 献一	伊藤 献一	伊藤 献一	伊藤 献一	伊藤 献一 (HASTIC)	伊藤 献一 (HASTIC)	伊藤 献一 (HASTIC)	-	-	-	-
吉田 和哉	吉田 和哉	吉田 和哉	吉田 和哉	吉田 和哉	吉田 和哉	吉田 和哉	吉田 和哉	吉田 和哉	吉田 和哉	吉田 和哉	-
三浦 公亮	三浦 公亮	三浦 公亮	三浦 公亮	三浦 公亮	三浦 公亮	三浦 公亮	三浦 公亮	三浦 公亮	三浦 公亮	三浦 公亮	三浦 公亮
中須賀 真一	中須賀 真一	中須賀 真一	中須賀 真一	中須賀 真一	中須賀 真一	中須賀 真一	中須賀 真一	中須賀 真一	中須賀 真一	中須賀 真一	中須賀 真一
松永 三郎	松永 三郎	松永 三郎	松永 三郎	松永 三郎	松永 三郎	松永 三郎	松永 三郎	-	-	-	-
松崎 雄嗣	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
土屋 和雄	土屋 和雄	土屋 和雄	土屋 和雄	土屋 和雄	土屋 和雄	土屋 和雄	土屋 和雄	-	-	-	-
大久保 博志	大久保 博志	大久保 博志	大久保 博志	大久保 博志	大久保 博志	大久保 博志	大久保 博志	大久保 博志	大久保 博志	大久保 博志	石田 良平
小島 広久	小島 広久	小島 広久	小島 広久	小島 広久	小島 広久	佐原 宏典	佐原 宏典	佐原 宏典	佐原 宏典	佐原 宏典	佐原 宏典
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茂原 正道	茂原 正道	茂原 正道	茂原 正道	茂原 正道	-	-	-	-	-	-	-
島田 一雄	島田 一雄	長浜 邦雄	長浜 邦雄	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	中島 厚	中島 厚	中島 厚	中島 厚	中島 厚	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	瀧上 文雄	瀧上 文雄
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	小山 孝一郎
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	黒木 聖司
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	宮崎 康行
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	岸本 直子
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	平山 寛
木村 真一	木村 真一	木村 真一	木村 真一	木村 真一	高橋 卓 情報通信研究機構 (NICT)	-	-	-	-	-	-
目黒 在	目黒 在	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	島田 一雄	島田 一雄	島田 一雄	島田 一雄	島田 一雄	島田 一雄	島田 一雄	島田 一雄	島田 一雄	島田 一雄
白子 悟朗	白子 悟朗	白子 悟朗	白子 悟朗	白子 悟朗	白子 悟朗	白子 悟朗	白子 悟朗	白子 悟朗	白子 悟朗	白子 悟朗	白子 悟朗
-	-	-	-	-	-	-	-	-	折井 武	折井 武	折井 武

4. 活動記録

衛星設計コンテストでは、学会誌・雑誌等への寄稿や学会等での発表など、広報活動を行ってきた。その活動記録の一部を以下に記す。

学会等での受賞

- [1] 平成 11 年度 (社) 日本工学教育協会業績賞 受賞
「衛星設計コンテスト参加による宇宙工学推進への貢献」
東京都立航空工業高等専門学校 島田一雄、若林良二、鈴木 弘、武藤憲司
- [2] 平成 25 年度宇宙開発利用大賞 文部科学大臣賞 受賞 (本誌 P47-48 参照)
「高校生から大学院生までを対象とした『衛星設計コンテスト』による、宇宙の啓蒙と次世代宇宙工学技術者等の育成事業」
- [3] 平成 25 年度日本機械学会教育賞 受賞
「高校生から大学院生までを対象とした『衛星設計コンテスト』による、宇宙の啓蒙と次世代宇宙工学技術者等の育成事業」

学会誌・雑誌等

- [1] 若林：“人工衛星を利用した総合安全システム”，電子情報通信学会技術研究報告 (信学技報) SANE112(17),pp.55-60,1993.
- [2] 中須賀：“第 1 回衛星設計コンテスト優秀作品の紹介”，日本航空宇宙学会誌，第 42 巻,第 481 号,pp.12~22,1994.2.
- [3] 高野：“プラネトリウム衛星の高性能化”，信学技報 SANE94(410),pp.1-8,1994.12.
- [4] 八坂,中島,中須賀：“SATELLITE DESIGN CONTEST IN JAPAN -ITS OBJECTIVES AND OVEVIEWS OF EXCELLENT WORKS-”，第 20 回 ISTS 岐阜大会,96-e-23,1996.
- [5] 島田：“衛星設計コンテスト紹介”，高専の教育と研究,Vol.1,No.3,pp.23~25,1996.
- [6] 島田：“第 5 回衛星設計コンテスト参加の呼びかけ”，高専の教育と研究, Vol.2,No.2,pp.17~18,1997.
- [7] 島田,若林,鈴木,武藤,田中,浅井,結城,近藤：“UnSAT と SCS の接続実験”，電子情報通信学会, 信学技報,SAT97-77,1997.11.
- [8] 鈴木,若林,武藤,島田,浅井,結城,近藤,田中：“UnSAT と SCS 接続実験による衛星遠隔教育への検討”，電子情報通信学会,信学技報,ET98-41,1998.6.
- [9] 島田,若林,鈴木,武藤,浅井,結城,近藤,田中,渡辺,美濃：“2 通信衛星システム (UnSAT・SCS) 接続実験”，都立航空高専研究紀要,第 35 号,pp.47~69,1998.9.
- [10] シリーズ対談・立花隆のスーパー好奇心「鯨衛星 宇宙開発に生き残る日本の戦略」，中央公論, pp.168~188,1999.1.
- [11] 島田,若林,鈴木,武藤,田中,浅井,結城,近藤：“SCS と UnSAT 接続による「高等技術フォーラム'97」ならびに「第 5 回衛星設計コンテスト」配信実験”，メディア教育研究, No.2,pp.29~42,1999.3.

- [12] 鈴木,若林,武藤,島田,浅井,杉本,大澤,近藤,田中：“衛星通信による衛星設計コンテスト配信実験”，都立航空高専研究紀要,第 37 号,pp.45~50,1999.9.
- [13] 鈴木,若林,武藤,島田,浅井,山岡,近藤,田中：“SCS 車載局と Internet による「高等技術教育フォーラム 2000」ならびに「第 8 回衛星設計コンテスト」配信実験”，都立航空高専研究紀要,第 38 号,pp.37~42,2000.9.
- [14] 島田：“衛星設計コンテストのあゆみと小型衛星開発の動向”,春秋会（郵政,NTT,KDD,NHK 等の OB 会）会報, No. 33, pp.49~73,2001.11.
- [15] 中須賀：“大学学生による衛星への挑戦 -衛星設計コンテストから手作り衛星へ-”，電子情報通信学会誌,Vol.85,No.4,pp.232~235,2002.4.
- [16] 島田：“中小企業の技術力と学生の知恵で小型衛星・小型ロケットを”,中小商工業研究,第 75 号, pp.22~32,2003.4.
- [17] 島田：“航空高専「夢衛星」ものがたり”,ヒューマンネットワーク高専雑誌赤とんぼ, Vol.8, pp.30~32,2004.3.
- [18] 島田：“中小企業の技術力と学生の知恵で小型衛星を”,ものづくり夢ステージ in 航専, 2004.8.
- [19] 島田：“宇宙に咲け、高専・地域連携の美しい花”，高専の教育と研究,Vol.9,No.2,p.5,2004.
- [20] 高い費用効果を目指した衛星システム・要素の設計・評価技術論文特集（編集委員長前田惟裕）,電子情報通信学会 論文誌 Vol.J88-B No.1,2005.1.
- [21] 伊藤：“衛星設計コンテストにおける学生指導”，高専教育,第 28 号,pp.631~636,2005.3.
- [22] 島田：“『第 13 回衛星設計コンテスト』で高校生がフレッシュなアイデアを披露”，工業教育,Vol-42,No.246,p.14,2006.3.
- [23] 伊藤：“衛星設計コンテストでの学生指導およびその教育的効果”，高専教育,第 30 号,pp.617~622,2007.3.
- [24] 島田：“若者の夢を育む工学教育 - 高専衛星が宇宙に舞うまでの道のり -”，「グローバル新時代、新たな科学技術立国に向けて提言する」,工学研究社, pp.65~77,2010.1.1.
- [25] 岡田,山口,松本,ホアン,亀川,伊藤：“第 17 回衛星設計コンテスト参加作品「みんなの宇宙絵本（衛星閲覧ソフト）」”，電子情報通信学会,信学技報,pp.145~149,2010.6.
- [26] 前田：“小型衛星の現状と将来－観測・通信ミッション”，信学技報 SANE2010-46,pp.181-187,2010.6.
- [27] 島田：“誕生半世紀の高専と衛星設計コンテストならびに宇宙分野で活躍する高専 OB の紹介”，電波技術協会報 FORN,No.279,pp.24~27,2011.3.
- [28] 伊藤：“衛星設計コンテストにおける学生指導とその成果”,高専教育,第 34 号,pp.733~738,2011.3.
- [29] 島田：“まもなく誕生半世紀の高専を想う”,マテリアルインテグレーション, Vol.24,No.06,pp.3~7,2011.6.
- [30] 島田：“学生の超小型衛星開発への登竜門「衛星設計コンテスト」20年のあゆみ”，電波技術協会報 FORN, No.285,pp.26~29,2012.3.
- [31] 今井：“木星から地球に届く謎の電波を探る” 電波技術協会報 FORN, No.285,pp.30~33,2012.3.

- [32] 荒川,武井,堅田,川口：“月エネルギー伝送衛星 AMATELUS”,信学技報 SANE 112(17) pp.1-6,2012.4.
- [33] 島田：“小形衛星活用で純国産“準天頂衛星システム（QZSS）の早期運用を””,航空自衛隊連合幹部会機関紙「翼」金星号,金風随想,No.98,pp.64~66,2012.7.
- [34] 林,小山,目黒,齋藤：“Satellite Design Contest in Japan”, AOGS2012 meeting , 2012.8.
- [35] 前田,倉原,中須賀：“Outline of Mission and Development of Hodoyoshi Microsatellites, IEICE Technical Report SANE 2012-87, pp.173-180, 2012.10. (ICSANE2012)
- [36] 三木：“社会に貢献するアマチュア無線”,電子情報通信学会通信ソサイエティマガジン,No.23,冬号,pp.186~195, 2012.12.
- [37] 電子情報通信学会技術研究報告 Vol.112 No.107,2012.
- [38] 北村,三浦：“技術者教育における衛星設計コンテストの活用例～より実践的な技術者育成に向けて～”,電波技術協会報 FORN, No. 291, pp.22~25,2013.3.
- [39] 平社：“高専における宇宙工学分野の PBL（Project Based Learning）”,電波技術協会報 FORN, No.297,pp.24~27,2014.3.
- [40] 河野,若松,榎：“第 21 回衛星設計コンテスト開催報告”,日本航空宇宙学会誌”,第 62 巻,第 4 号,p.143~146,2014.4.
- [41] 中島：“可視光通信実験衛星「ぎんれい」の開発と運用”,信学技報 SANE2014-21,pp.1-4,2014.6.
- [42] 前田,中須賀：“Overview of Hodoyoshi Microsatellites for Remote Sensing and its future Prospect” Proceedings of IGARSS-2014, pp.3630-3633, 2014.7.
- [43] 藤澤：“第 21 回衛星設計コンテスト宇宙科学振興会賞受賞について”,工業教育,Vol-50,No.297,p.68,2014.9.
- [44] 齋藤,中谷：“衛星設計コンテスト - その歩みと将来 - ”,電子情報通信学会会誌, Vol.97,No.9,pp.778~781,2014.9.
- [45] 電子情報通信学会技術研究報告 Vol.114- No.87,2014.
- [46] 伊藤：“鳥羽商船高専の「衛星設計コンテスト」への参加状況の紹介”,電波技術協会報 FORN,No.303,pp.24~27,2015.3.

Web 掲載記事

- [1] 島田：“衛星設計コンテストを支える頭脳”,イカロス, Vol.1-1~ Vol.1-3,2001.1.
- [2] 中谷：“衛星設計コンテストについて”,Space Japan Revie,No.52,2007.10/11.
- [3] 三木：“新時代を迎えるアマチュア衛星”,月刊 FBNEWS,2014.1.
- [4] 東工大：“東工大の学生が開発した超小型人工衛星“TSUBAME”宇宙へ向けて旅立つ”,東工大 HP,2014.10.21.

新聞・テレビ等の記事

- [1] “衛星設計コンテスト入賞 都立航空工業高専 東大、横国大と渡り合い”,東京新聞,1994.11.16.
- [2] “7月に衛星設計コンテスト開催 3学会と宇宙開発事業団など共同で”,東京新聞,1995.3.3.

- [3] “都立航空高専の2チーム「アイデア部門」に挑む 第3回衛星設計コンテスト30日に最終審査会”,東京新聞,1995.7.29.
- [4] “第3回衛星設計コンテスト 入賞作品決定”,L5 (日本宇宙少年団機関誌),1995.11.
- [5] “「第4回衛星設計コンテスト」最終審査会の開催”,NASDA NEWS,1996.12.
- [6] “「大賞」目指す 衛星設計コンテストに挑戦 都立航空高専チーム”,東京新聞,1997.10.25.
- [7] “学生の設計した人工衛星実現も 独創的2テーマに大賞 ありじごく型惑星掘削ロボと南極観測衛星「しらゆき」に”,日本工業新聞,1997.10.31.
- [8] “第6回衛星設計コンテスト 来月18日に最終審査会”,日本工業新聞,1998.9.28.
- [9] “衛星設計コンテスト11カ所に衛星中継”,日経産業新聞,1998.10.16.
- [10] “大賞に九大の坂本氏ら 機械学会など衛星設計コンテスト”,日本工業新聞,1998.10.26.
- [11] “第6回衛星設計コンテスト最終審査会を開催 設計大賞に九州大学の「月周回カメラLUNA2001の提案」”,NASDA ニュース,No.205,1998.12.
- [12] “学生「衛星設計コンテスト」宇宙へ飛び出せ「たこ」の原理”,讀賣新聞,2000.10.26.
- [13] “都立航空高専チーム 衛星写真を利用し人口密度分布調査 宇宙科学振興会賞(衛星設計コンテスト)を受賞「発電補助システム」のテーマで奨励賞も”,東京新聞,2000.10.27.
- [14] “衛星設計コンテスト 宇宙開発の夢 若者が独創競う「流星観測」 東北大大学院「編隊」東京大大学院に大賞”,讀賣新聞,2001.10.24.
- [15] “宇宙はもっと近くなる 第11回衛星設計コンテスト 独創性を競う学生らの登竜門 26日、12件で最終審査会 高専3チーム残る”,日本工業新聞,2003.10.23.
- [16] “学生の夢実現へ学生らアイデア 衛星設計コンテスト”,東京新聞,2003.10.27.
- [17] “衛星設計コンテスト受賞者決まる アイデア部門に東工大・青山さんら 設計部門に東大・永山さんら”,日本工業新聞,2003.10.28.
- [18] “学生の夢実現へ学生らアイデア 学生衛星コンテスト”,NHK テレビ「スタジオパーク」,2003.11.28.

衛星設計コンテスト参加者体験記

- [1] 第11回 北海道大学：衛星設計コンテスト HP
- [2] 第12回 日本大学：衛星設計コンテスト HP
- [3] 第18回 首都大学東京：衛星設計コンテスト HP

技術資料

- [1] 第1回衛星設計コンテスト技術資料：1993年1月衛星設計コンテスト実行委員会
- [2] 衛星設計コンテスト技術資料：1994年2月衛星設計コンテスト実行委員会
- [3] 衛星設計コンテスト技術資料（改訂版）：1997年3月衛星設計コンテスト実行委員会
- [4] 衛星設計入門：2002年6月初版 茂原、鳥山
衛星設計コンテスト実行委員会監修（増刷：検討予定）

事例名 高校生から大学院生までを対象とした「衛星設計コンテスト」による、宇宙の啓蒙と次世代宇宙工学技術者等の育成事業

受賞者 衛星設計コンテスト実行委員会

事例の概要

受賞者は、高校生から大学院生を対象とした衛星ミッションや衛星設計を競うコンテストを行い、衛星設計や宇宙ミッションの創造を通じて、将来の宇宙開発を担う人材を育成してきた。「衛星設計コンテスト」は1993年の設立以来、20年以上に亘り毎年実施されてきており、現在は日本機械学会、日本航空宇宙学会、電子情報通信学会、日本天文学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、宇宙航空研究開発機構、宇宙科学振興会、日本宇宙フォーラムの主催団体のほか、有識者によって組織される受賞者によって運営されている。

選考委員会講評 / 受賞のポイント

- ▶長い歴史の中で、設計・技術に関してきちんとした考え方・道筋を学ぶためのきっかけを若手に提供し続けてきた活動が素晴らしい。また実際に設計に終わらず、そこからキューブサットや様々な小型探査機が産まれてきていることも重要な成果で、そこから新しい市場も産まれてきていると考える。市場拡大や高度化・効率化に関しては他との連携も必要であるが、設計コンテストとしての役割を、今後も継続的に実施して欲しい。
- ▶20年にわたり若者の宇宙への関心を高め、宇宙関連の人材育成のすそ野の拡大に貢献してきたことを評価する。

ポイント・具体的成果等

1. 市場拡大への貢献

将来の日本の宇宙開発分野の担い手となる優秀な人材を育てる登龍門としての役割を果たし、これまでに延べ1,000名を超える学生に手厚い教育・指導を行ってきた。大学グループがコンテストに出品したアイデアを具体化させて開発した衛星が、実際に打ち上げられる事も多くなり、宇宙の市場拡大に大きく貢献している。

2. 産業、生活、行政の高度化及び効率化への貢献

コンテスト参加者から、JAXAや宇宙産業に就職する若者を多数輩出しており、世界初のソーラーセイル実証機「IKAROS」や「はやぶさ2」プロジェクトに参画している者もでてきている。

3. 技術への貢献

本コンテストではエントリーした全ての作品に対して、宇宙開発の実践に即した厳しい指摘を示すとともに、学生たちの意欲継続・将来へのステップアップにつながる指導を行うこととしている。その結果、本コンテストを巣立った学生たちの知識や経験がベースとなって継承され、実際の小型衛星の開発や打上げ・運用にまで発展する事例も数多く出てくるなど、技術開発の裾野拡大に大きく貢献している。

4. 普及啓蒙への貢献

近年では、本コンテストへの参加をSSH（スーパーサイエンス・ハイスクール）の活動の一環として取り入れている高校も存在する。「宇宙」を教育に取り入れ、また若年層への宇宙開発への興味を促進することに貢献している。特に、本コンテストには「ジュニアの部」があり、高校生らの宇宙利用のアイデアを大事にして、育て上げるプロセスを重視している。



第20回衛星設計コンテスト 最終審査会の様子

衛星設計コンテスト事務局

問合せ先

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2-1 新御茶ノ水アパートロニシティビル2F (一財)日本宇宙フォーラム内
03-6206-4902 <http://www.satcon.jp/>

平成 25 年 10 月 10 日（木）に開催された表彰式の様子



表彰状・副賞



5. 今後の活動について

本衛星設計コンテストは、1993年に設立されました。設立時に於いては、日本機械学会、日本航空宇宙学会および電子情報通信学会の関係者をはじめ多くの方々のご苦勞があったと伺い、改めて諸先輩方のご尽力に感謝申し上げます。設立以来、毎年衛星設計コンテストを実施し、これまでに延べ1,000名を超える学生に、将来のステップアップにつながるような指導やコメントを行うように努めてまいりました。その結果、コンテストに出品したアイデアを具体化した小型衛星が打ち上げられたり、コンテスト参加者から、宇宙航空研究開発機構（JAXA）や宇宙産業に就職する若者を多数輩出したりしています。

このような長年の活動に対し功績が認められ、一昨年「平成25年度宇宙開発利用大賞」文部科学大臣賞ならびに「平成25年度日本機械学会教育賞」の受賞に至りました。この受賞は、これまで本コンテストに応募されてこられた学生諸君はもとより、本コンテストに関わってこられた指導教官、関係学会や財団およびJAXAなどの関係機関、関係企業など多くの方々のご尽力とご支援をいただいたお蔭です。

そこで今年、23回目を迎えるにあたり、これまでの22年間の活動・成果を「22年の歩み」として纏めることになったことは、この上ない喜びです。今後の活動の指針にも参考となり、活用させていただきたいと考えています。

これからも、変化する教育環境に適応しながら、日本の宇宙開発・研究・事業・利用分野などを担う人材育成に貢献して行きます。

また、国内だけでなく海外からの衛星設計コンテストへの参加を増やし、異なった文化や考え方にも接し、多種多様な発想が出来る人材育成への貢献、ならびに技術的な情報交換を通じて、アジア地域の宇宙開発・教育への貢献が出来れば、少しでも地域の発展に役立つのではないかと考えています。

なお、これからは、小型衛星の需要が増大すると見込まれるのに対し、その小型衛星を打ち上げる機会が少なくなってくるのではないかと危惧しています。あらためて相乗り打ち上げの機会を増やす仕組みがとても重要になってくると思っています。

一層のご支援、ご指導を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

衛星設計コンテスト 実行委員会会長 折井 武

衛星設計コンテスト 23 周年記念

衛星設計コンテスト 22 年の歩み

発行日：2015 年 6 月 30 日

衛星設計コンテスト 20 年史編集委員会

委員長： 折井 武（衛星設計コンテスト実行委員会会長）

委員： 中島 厚（衛星設計コンテスト実行委員会幹事委員）

前田 惟裕（衛星設計コンテスト審査委員・実行委員）

島田 一雄（衛星設計コンテスト実行委員）

小山 孝一郎（第 19～21 回衛星設計コンテスト審査委員長・現実行委員）

協力： 衛星設計コンテスト事務局

印刷： 株式会社ビー・シー・シー

本書に掲載されている一切の無断転載を禁じます。

資料使用をご希望の方、また本書に関するお問合せは衛星設計コンテスト事務局までお願いします。

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-2-1 新御茶ノ水アーバントリニティビル 2 階

日本宇宙フォーラム内 衛星設計コンテスト事務局 TEL. 03-6206-4902 FAX. 03-5296-7010

衛星設計コンテスト公式ウェブサイト <http://www.satcon.jp/>